

令和4年度 全国学力・学習状況調査

調査結果のポイントについて

～北海道（公立）における調査結果～

**北海道教育委員会
令和4年（2022年）7月28日**

【 目 次 】

1. 調査の概要	1
2. 結果の概要	2
■ 教科に関する調査	
■ 質問紙調査〈児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査〉	
3. 教科に関する調査	
■ 小学校〈国語、算数、理科〉.....	4
■ 中学校〈国語、数学、理科〉.....	10
4. 質問紙調査	16
5. 1人1台端末の活用について.....	25
【参考】札幌市を除く北海道の調査結果	28

1. 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部の第3学年の生徒

3 調査の内容

- 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
次の①と②を一体的に問う調査問題
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ① 児童生徒に対する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ② 学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査の実施日

令和4年（2022年）4月19日（火）

6 令和4年（2022年）4月19日（火）に調査を実施した学校数・児童生徒数

北海道（公立）

[参考] 全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	958	949(99.1%)	34,310	小学校	18,805	18,671(99.3%)	965,761
中学校	577	568(98.4%)	32,940	中学校	9,437	9,348(99.1%)	892,585
合計	1,535	1,517(98.8%)	67,250	合計	28,242	28,019(99.2%)	1,858,346

※ 札幌市を含む。

※ 実施学校数は、4月19日に調査を実施した数。

※ 児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値*1、標準偏差*2等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータをもとに道教委が独自に算出した小数値で示している。

*1 中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

*2 標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

2. 結果の概要

教科に関する調査

○ 平均正答率の比較

- ・ 小学校は、すべての教科で全国との差が2.1ポイント以内（令和3年度2.7ポイント以内）。
- ・ 中学校は、すべての教科で全国との差が2.5ポイント以内（令和3年度1.3ポイント以内）。

各教科の平均正答率

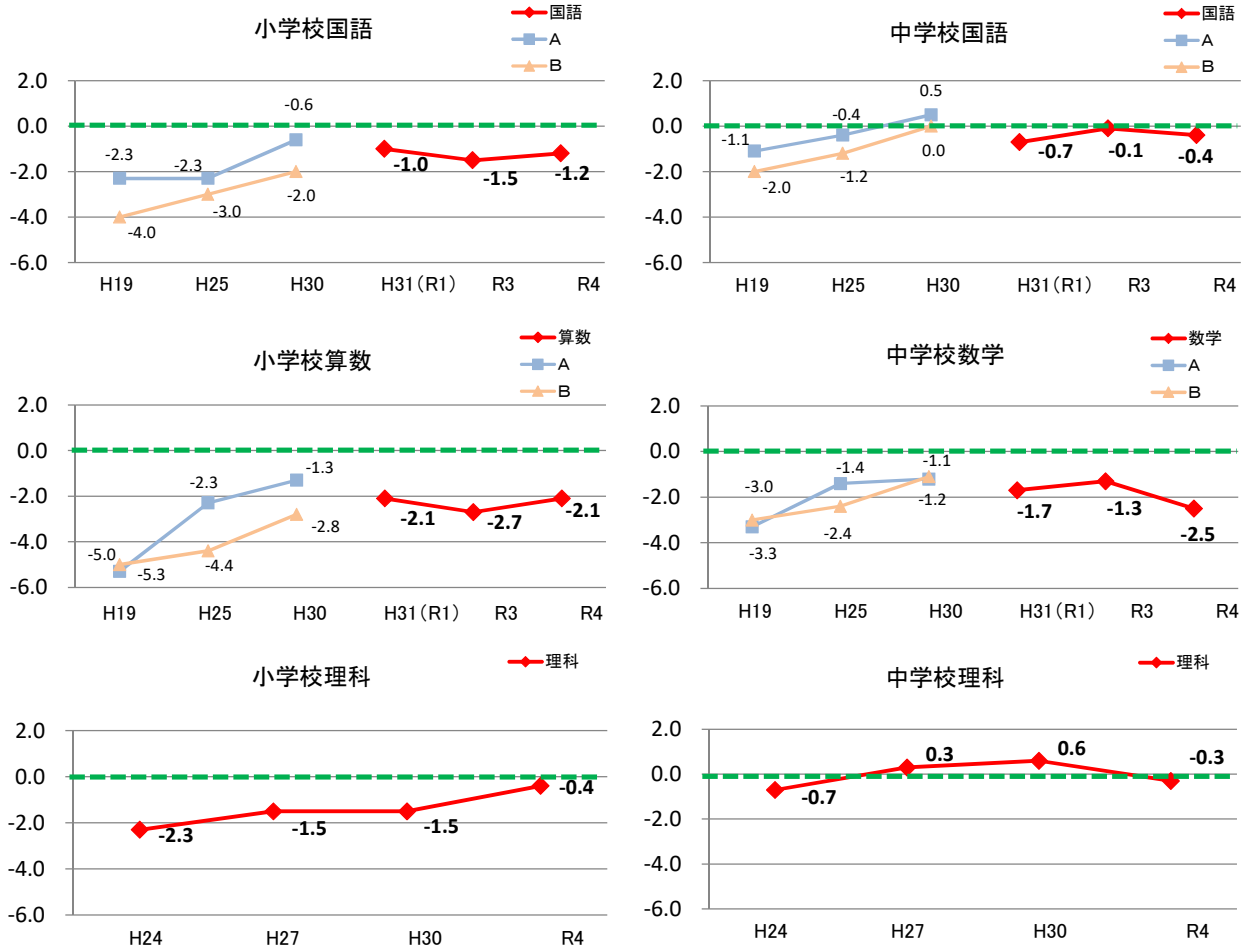
		小学校			中学校		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
		R4	R4	R4	R4	R4	R4
		R3	R3	H30	R3	R3	H30
平均正答率 (%)	道	64[64.4]	61[61.1]	63[62.9]	69[68.6]	49[48.9]	49[49.0]
		63 [63.2]	67 [67.5]	59 [58.8]	65 [64.5]	56 [55.9]	67 [66.7]
国		66[65.6]	63[63.2]	63[63.3]	69[69.0]	51[51.4]	49[49.3]
		65 [64.7]	70 [70.2]	60 [60.3]	65 [64.6]	57 [57.2]	66 [66.1]
平均正答数 (問)	道	9.0/14	9.8/16	10.7/17	9.6/14	6.9/14	10.3/21
		8.9/14	10.8/16	9.4/16	9.0/14	8.9/16	18.0/27
国		9.2/14	10.1/16	10.8/17	9.7/14	7.2/14	10.4/21
		9.1/14	11.2/16	9.6/16	9.0/14	9.1/16	17.9/27

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値〔道教委が独自に算出した小数値〕

※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値〔国が公表した小数値〕

※ 国語・算数（数学）については、上段は令和4年度、下段は令和3年度、理科については、上段は令和4年度、下段は前回調査のあった平成30年度の結果

全国と北海道の平均正答率の差



※ 数値は、「北海道(公立)の平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の差で算出。

■ 質問紙調査（概要）

	児童生徒質問紙調査	学校質問紙調査
授業改善	① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童生徒の割合は、小学校で30.7%、中学校で30.5%であり、令和3年度と比べて、小学校で同様、中学校で1.9ポイント低い。全国と比べて、小学校で0.2ポイント高く、中学校で0.7ポイント低い。(小39、中39)	⑨ 児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う学校の割合は、小学校で31.9%、中学校で24.9%であり、令和3年度と比べて、小学校で5.7ポイント、中学校で3.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で12.6ポイント、中学校で5.7ポイント高い。(小23、中23)
	② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童生徒の割合は、小学校で38.3%、中学校で33.6%であり、令和3年度と比べて、小学校で5.3ポイント、中学校で1.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.6ポイント高く、中学校で0.5ポイント低い。(小43、中43)	⑩ 児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う学校の割合は、小学校で21.9%、中学校で24.2%であり、令和3年度と比べて、小学校で1.3ポイント、中学校で2.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で6.8ポイント、中学校で3.9ポイント高い。(小26、中26)
自己有用感等	③ 自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合は、小学校で35.8%、中学校で36.2%であり、令和3年度と比べて、小学校で3.9ポイント、中学校で2.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.6ポイント低く、中学校で0.2ポイント高い。(小7、中7)	⑪ 児童生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できる取組をよく行った学校の割合は、小学校で50.6%、中学校で48.5%であり、令和3年度と比べて、小学校で2.9ポイント低く、中学校で3.7ポイント高い。全国と比べて、小学校で11.6ポイント、中学校で12.7ポイント高い。(小37、中37)
	④ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は、小学校で59.2%、中学校で39.9%であり、令和3年度と比べて、小学校で0.4ポイント高く、中学校で0.2ポイント低い。全国と比べて、小学校で1.2ポイント低く、中学校で0.1ポイント高い。(小9、中9)	⑫ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行った学校の割合は、小学校で32.0%、中学校で60.1%であり、令和3年度と比べて、小学校で1.2ポイント、中学校で5.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で11.6ポイント、中学校で9.2ポイント高い。(小8、中8)
学習習慣等	⑤ 家で自分で計画を立てて勉強している（授業の予習や復習を含む）児童生徒の割合は、小学校で76.6%、中学校で59.7%であり、令和3年度と比べて、小学校で2.3ポイント、中学校で5.5ポイント低い。全国と比べて、小学校で5.5ポイント、中学校で1.2ポイント高い。(小20、中20)	⑬ 家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える取組を行った学校の割合は、小学校で97.8%、中学校で95.2%であり、令和3年度と比べて、小学校で0.3ポイント低く、中学校で0.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で1.3ポイント、中学校で1.6ポイント高い。(小77、中75)
	⑥ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校で56.6%、中学校で63.6%であり、令和3年度と比べて、小学校で1.7ポイント、中学校で8.3ポイント低い。全国と比べて、小学校で2.8ポイント、中学校で5.9ポイント低い。(小21、中21)	⑭ 保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った学校の割合は、小学校で97.4%、中学校で93.0%であり、全国と比べて、小学校で5.0ポイント、中学校で6.3ポイント高い。(小78、中76)
生活習慣等	⑦ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしている児童生徒の割合は、小学校で81.4%、中学校で74.4%であり、令和3年度と比べて、小学校で0.1ポイント、中学校で9.2ポイント低い。全国と比べて、小学校で5.3ポイント、中学校で3.1ポイント高い。(小5、中5)	検証改善サイクルの確立等
	⑧ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などを行っている児童生徒の割合は、小学校で56.5%、中学校で79.3%であり、全国と比べて、小学校で5.9ポイント、中学校で3.5ポイント高い。(小6、中6)	
		⑯ 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、学校全体で教育活動を改善するためによく活用した学校の割合は、小学校で56.4%、中学校で53.6%であり、令和3年度と比べて、小学校で6.5ポイント、中学校で9.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で26.5ポイント、中学校で30.0ポイント高い。(小80、中78)

（グラフはP16～P22、P24に掲載）

（ ）内は質問番号

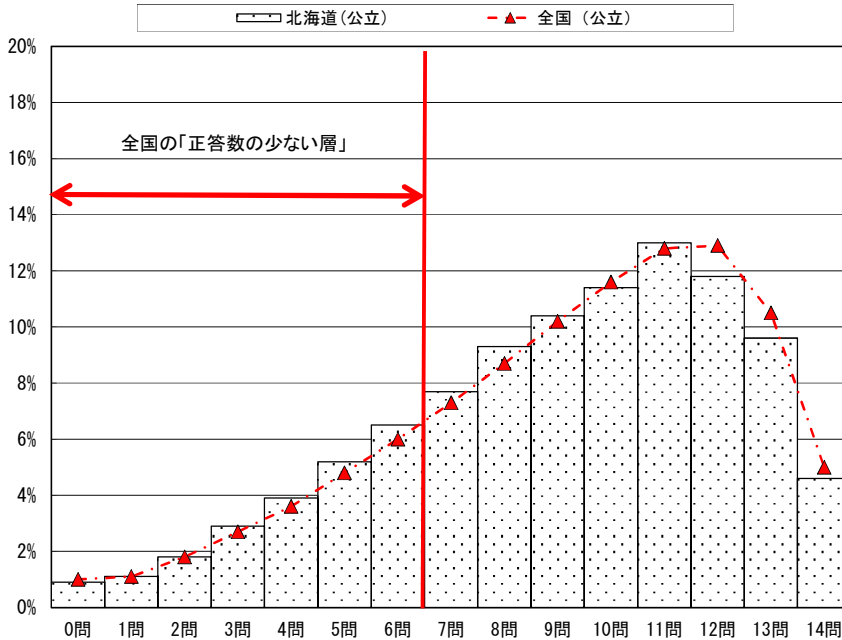
3. 教科に関する調査

■ 小学校国語

【概要】

- 平均正答率は64 [64.4] %
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.2ポイント。

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,309	9.0 / 14	64 [64.4]	10.0	3.2
全国(公立)	965,308	9.2 / 14	66 [65.6]	10.0	3.3



正答数 (児童の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
14問(100.0%)	4.6	5.0
13問(92.9%)	9.6	10.5
12問(85.7%)	11.8	12.9
11問(78.6%)	13.0	12.8
10問(71.4%)	11.4	11.6
9問(64.3%)	10.4	10.2
8問(57.1%)	9.3	8.7
7問(50.0%)	7.7	7.3
6問(42.9%)	6.5	6.0
5問(35.7%)	5.2	4.8
4問(28.6%)	3.9	3.6
3問(21.4%)	2.9	2.7
2問(14.3%)	1.8	1.8
1問(7.1%)	1.1	1.1
0問(0.0%)	0.9	1.0

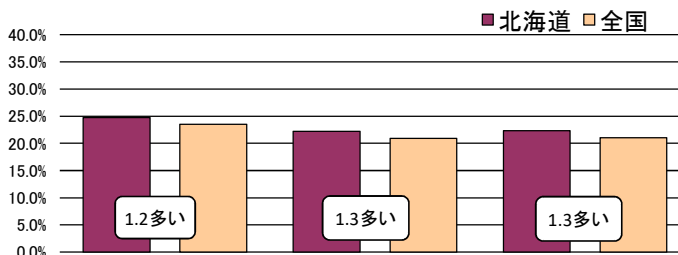
(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△12.0問	12.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



	H31(R1)		R3		R4	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	24.7%	23.5%	22.2%	20.9%	22.3%	21.0%
正答数	14問中 6問以下		14問中 6問以下		14問中 6問以下	
全国との差	1.2	多い	1.3	多い	1.3	多い

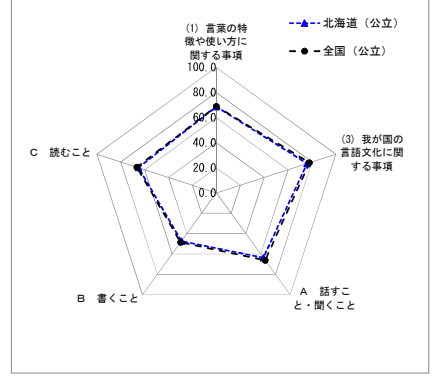
問題別調査結果 [小学校国語]

集計結果

対象学校数		北海道(公立)	全国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全国(公立)
		949	18,668		34,309	965,308

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体					
			14	64	65.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	5	68.7	69.0
		(2) 情報の扱い方に關する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	1	75.9	77.9
	思考力・判断力・表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	63.7	66.2
		B 書くこと	2	47.4	48.5
		C 読むこと	4	65.2	66.6
評価の観点	知識・技能		6	69.9	70.5
	思考・判断・表現		8	60.4	62.0
	主体的に学習に取り組む態度		0		
問題形式	選択式		8	70.6	71.8
	短答式		3	63.5	63.6
	記述式		3	48.8	51.3

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)		
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力等				北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項							A 話すこと・聞くこと
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	5・6イ					85.4	85.5	0.8	0.9	
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	5・6ア					67.4	68.8	0.9	1.0	
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える			3・4エ			83.2	84.7	0.9	1.0	
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="checkbox"/> でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる			5・6オ			44.2	47.7	3.5	3.0	
2一(1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える				3・4イ		67.6	68.4	0.9	1.0	
2一(2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える				5・6イ		68.4	70.6	1.4	1.6	
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する				5・6エ		66.4	68.3	13.6	12.2	
2三	【山村さんの文章】の <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える				5・6エ		58.2	59.2	3.1	3.2	
3一	【文章2】の <input type="checkbox"/> の部分で、どのように気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える				5・6オ		59.1	59.2	2.4	2.5	
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよきを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける				5・6カ		35.8	37.7	16.4	14.5	
3三ア	【文章2】の中の <input type="checkbox"/> 部アを、漢字を使って書き直す(ひくが)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6エ					65.4	65.2	7.9	8.1	
3三イ	【文章2】の中の <input type="checkbox"/> 部イを、漢字を使って書き直す(はんせい)		5・6エ					59.4	58.7	10.2	10.2	
3三ウ	【文章2】の中の <input type="checkbox"/> 部ウを、漢字を使って書き直す(したしむ)		5・6エ					65.8	67.1	15.4	14.7	
3四	(一)から(二)に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く				3・4イ(イ)		75.9	77.9	5.7	5.9	

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H31(R1)	R3	R4
平均正答率が全国以上の問題数	1/14問	3/14問	2/14問
無解答率が全国以下の問題数	9/14問	11/14問	10/14問
無解答率が5%以上の問題数	8/14問	5/14問	6/14問

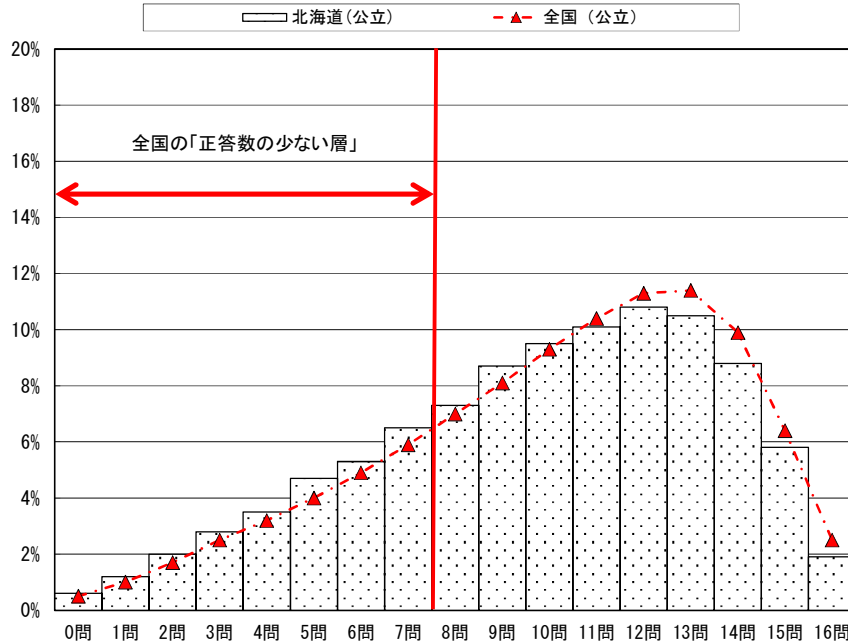
3. 教科に関する調査

■ 小学校算数

【概要】

- 平均正答率は61〔61.1〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.1ポイント。

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,304	9.8 / 16	61〔61.1〕	10.0	3.7
全国(公立)	965,431	10.1 / 16	63〔63.2〕	11.0	3.6



※ 全国の「正答数の少ない層」… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

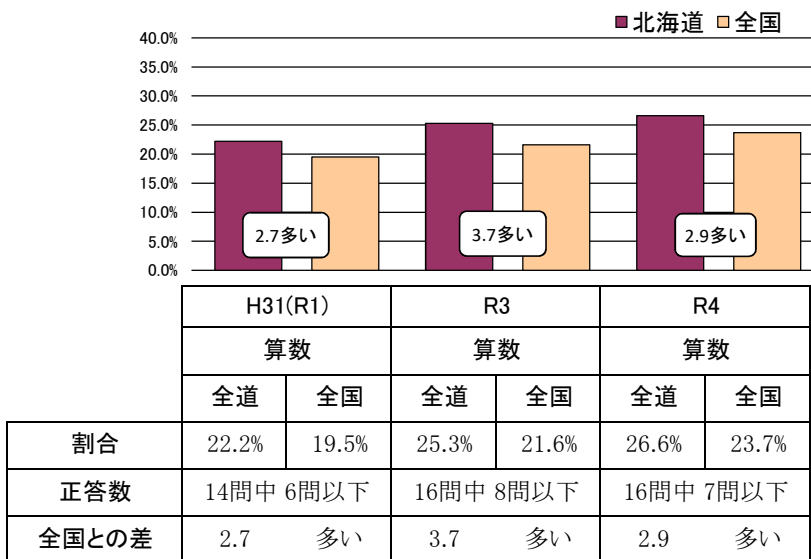
正答数 (児童の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
16問(100.0%)	1.9	2.5
15問(93.8%)	5.8	6.4
14問(87.5%)	8.8	9.9
13問(81.3%)	10.5	11.4
12問(75.0%)	10.8	11.3
11問(68.8%)	10.1	10.4
10問(62.5%)	9.5	9.3
9問(56.3%)	8.7	8.1
8問(50.0%)	7.3	7.0
7問(43.8%)	6.5	5.9
6問(37.5%)	5.3	4.9
5問(31.3%)	4.7	4.0
4問(25.0%)	3.5	3.2
3問(18.8%)	2.8	2.5
2問(12.5%)	2.0	1.7
1問(6.3%)	1.2	1.0
0問(0.0%)	0.6	0.5

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△13.0問	13.0問
第2四分位	◇10.0問	11.0問
第1四分位	▽7.0問	8.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
 ■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

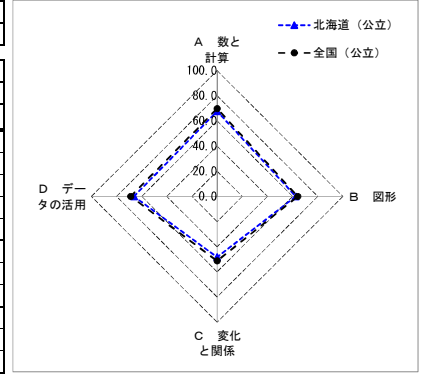


問題別調査結果 [小学校算数]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全国(公立)
	949	18,667		34,304	965,431
分類	区分		対象問題数(問)	平均正答率(%)	
	全体			北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	A 数と計算		6	67.7	69.8
	B 図形		4	62.5	64.0
	C 測定		0		
	C 変化と関係		4	48.3	51.3
	D データの活用		3	66.1	68.7
評価の観点	知識・技能		9	66.3	68.2
	思考・判断・表現		7	54.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度		0		
問題形式	選択式		6	50.6	51.8
	短答式		6	74.2	76.5
	記述式		4	57.0	60.2

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点		問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	
1(1)	1050×4を計算する	被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることができる	3(1) 7(2) 9(3) 7(4) 4(7) 7(7)											92.3	92.4	0.4	0.3
1(2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	5(1) 7(4)											70.1	72.2	4.1	3.0
1(3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	3(4) 4(7) 4(3) 7(4)											73.5	76.0	6.4	5.2
1(4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	4(2) 4(7)											36.0	34.8	1.0	0.9
2(1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる				5(3) 7(4)								69.0	71.1	4.7	3.9
2(2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる				5(3) 7(4)								61.4	64.6	4.0	3.3
2(3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のよう、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している				5(3) 7(7)								21.0	21.4	1.2	1.1
2(4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる				5(1) 4(7)								41.8	48.0	6.7	5.5
3(1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	4(6) 7(7)					3(1) 7(7)						70.2	75.3	2.6	2.1
3(2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる						3(1) 4(7)						61.3	63.9	1.7	1.6
3(3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる						5(1) 7(7)						66.8	66.8	2.6	2.2
3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	4(6) 7(7) 4(7)											63.8	67.7	10.4	8.6
4(1)	示されたプログラムについて、正三角形をかき直して正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	3(1) 7(7) 4(5) 7(7) 4(7)											49.0	48.8	4.4	3.8
4(2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している				2(1) 7(4)								82.1	83.2	5.6	4.7
4(3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかき直して正しいプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している				4(1) 7(4)								64.2	66.5	5.3	4.6
4(4)	示されたプログラムでかき直して正しい図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる				4(1) 7(4) 4(7)								54.5	57.6	5.9	5.1

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H31(R1)	R3	R4
平均正答率が全国以上の問題数	1/14問	1/16問	3/16問
無解答率が全国以下の問題数	5/14問	4/16問	0/16問
無解答率が5%以上の問題数	2/14問	3/16問	6/16問

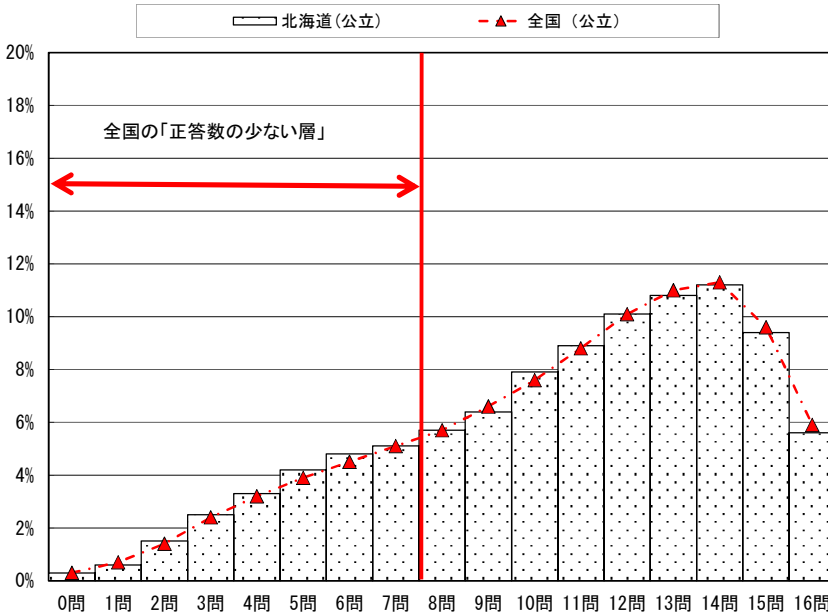
3. 教科に関する調査

■ 小学校理科

【概要】

- 平均正答率は63〔62.9〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.4ポイント。

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,310	10.7 / 17	63〔62.9〕	11.0	3.8
全国(公立)	965,761	10.8 / 17	63〔63.3〕	11.0	3.8



※ 全国の「正答数の少ない層」 … 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

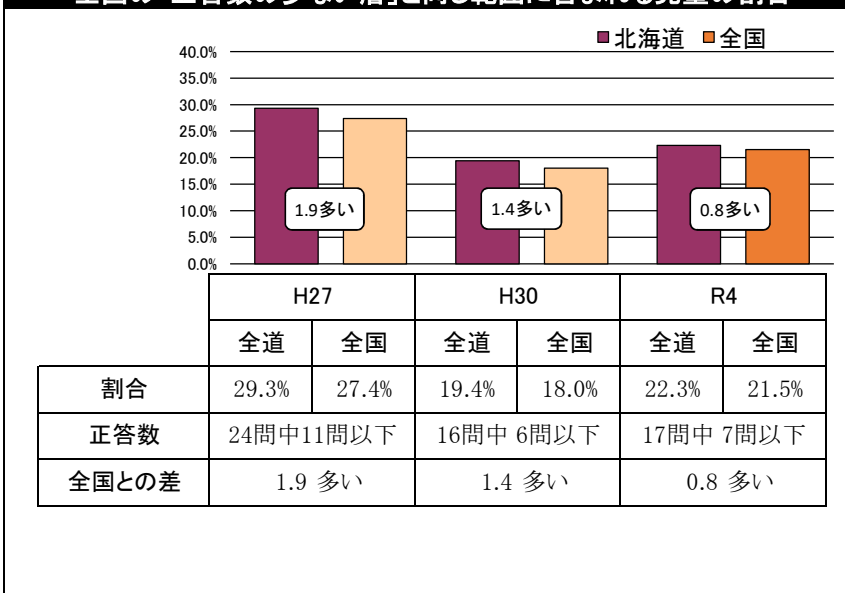
正答数 (児童の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
17問(100.0%)	1.7	1.8
16問(94.1%)	5.6	5.9
15問(88.2%)	9.4	9.6
14問(82.4%)	11.2	11.3
13問(76.5%)	10.8	11.0
12問(70.6%)	10.1	10.1
11問(64.7%)	8.9	8.8
10問(58.8%)	7.9	7.6
9問(52.9%)	6.4	6.6
8問(47.1%)	5.7	5.7
7問(41.2%)	5.1	5.1
6問(35.3%)	4.8	4.5
5問(29.4%)	4.2	3.9
4問(23.5%)	3.3	3.2
3問(17.6%)	2.5	2.4
2問(11.8%)	1.5	1.4
1問(5.9%)	0.6	0.7
0問(0.0%)	0.3	0.3

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△14.0問	14.0問
第2四分位	◇11.0問	11.0問
第1四分位	▽8.0問	8.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
 は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



問題別調査結果 [小学校理科]

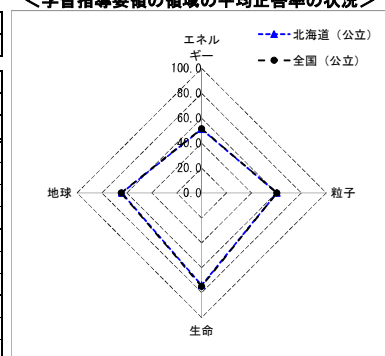
集計結果

対象学校数	北海道 (公立)	全国 (公立)	対象児童数	北海道 (公立)	全国 (公立)
	949	18,601		34,310	965,761

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			北海道 (公立)	全国 (公立)	
全体			17	63.3	
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	51.2	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	60.4	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	74.1	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	64.1	64.6
評価の観点	知識・技能	6	63.2	62.5	
	思考・判断・表現	11	62.7	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	11	66.3	66.8	
	短答式	3	67.7	66.2	
	記述式	3	45.3	47.3	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域		評価の観点	問題形式	正答率 (%)		無解答率 (%)	
			A区分	B区分			北海道 (公立)	全国 (公立)	北海道 (公立)	全国 (公立)
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域 「生命」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域						
1 (1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる		3B (1)7 (7)問 (4)問	○	○	92.7	92.9	0.2	0.2
1 (2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直しを書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		3B (1)7 (7)問 (4)問	○	○	65.4	67.5	5.4	5.0
1 (3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している		3B (1)7 (7)問 (4)問	○	○	72.7	73.1	0.3	0.3
1 (4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		3B (1)7 (7)問 (4)問	○	○	75.5	76.1	0.7	0.7
1 (5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		3B (1)7 (7)問 (4)問	○	○	64.4	65.5	1.5	1.4
2 (1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスリンダーという器具を理解している		4A (2)7 (7)問 (9)問	○	○	74.3	67.8	8.0	9.8
2 (2)	水50mLをはかり取る際に、メスリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスリンダーの正しい扱い方を身に付けている		4A (2)7 (7)問 (9)問	○	○	70.3	70.0	0.6	0.6
2 (3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる		4A (2)7 (7)問 (9)問 5A (1)7 (7)問 (9)問	○	○	60.8	62.8	1.0	1.0
2 (4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事象・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		4A (2)7 (7)問 (9)問 5A (1)7 (7)問 (9)問	○	○	36.8	39.3	8.8	8.7
3 (1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している		3A (3)7 (7)問 (4)問	○	○	28.3	27.8	0.6	0.6
3 (2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している		3A (3)7 (7)問 (4)問	○	○	73.7	74.4	1.2	1.3
3 (3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる		3A (3)7 (7)問 (4)問 3B (2)7 (7)問 (4)問	○	○	69.2	68.9	5.2	5.1
3 (4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		3A (3)7 (7)問 (4)問	○	○	33.7	35.1	11.2	11.2
4 (1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		4B (4)7 (7)問 (4)問	○	○	81.1	82.3	1.2	1.0
4 (2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる		4B (4)7 (7)問 (4)問	○	○	64.9	64.5	1.4	1.3
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		4B (4)7 (7)問 (4)問	○	○	45.5	45.5	6.2	6.5
4 (4)	鉄棒に付着していた水滴と水の粒は、何が変化したものかを書く	水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している		4A (2)7 (7)問 (9)問 4B (4)7 (7)問 (4)問	○	○	59.6	62.0	6.5	6.2

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H27	H30	R4
平均正答率が全国以上の問題数	4/24問	2/16問	6/17問
無解答率が全国以下の問題数	7/24問	16/16問	10/17問
無解答率が5%以上の問題数	4/24問	1/16問	7/17問

3. 教科に関する調査

■ 中学校国語

【概要】

- 平均正答率は69〔68.6〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.4ポイント。
- 〔参考〕今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果
平成31年度（令和元年度）小学校国語の全国平均正答率との差は、-1.0ポイント。

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	32,910	9.6 / 14	69〔68.6〕	10.0	3.0
全国（公立）	891,820	9.7 / 14	69〔69.0〕	10.0	2.9

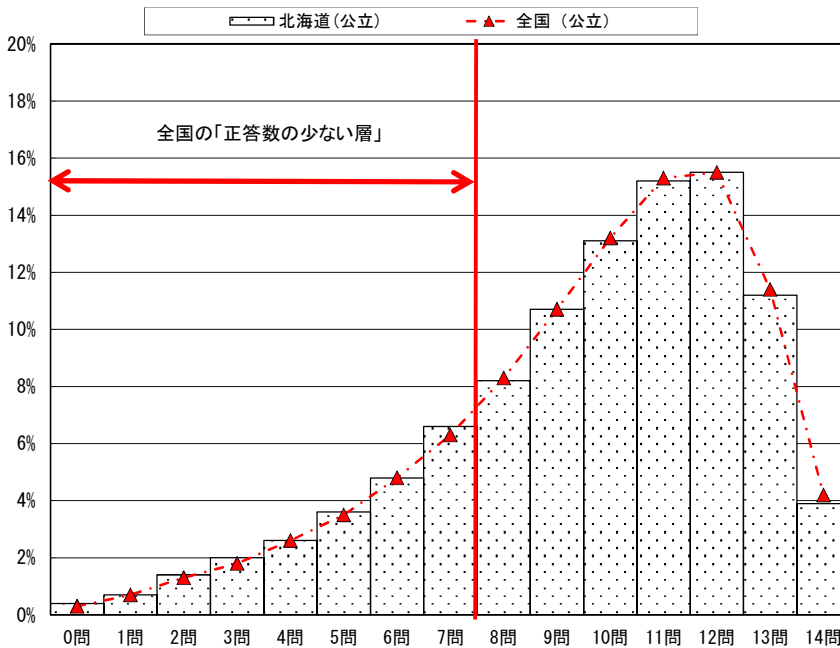
正答数（生徒の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
14問（100.0%）	3.9	4.2
13問（92.9%）	11.2	11.4
12問（85.7%）	15.5	15.5
11問（78.6%）	15.2	15.3
10問（71.4%）	13.1	13.2
9問（64.3%）	10.7	10.7
8問（57.1%）	8.2	8.3
7問（50.0%）	6.6	6.3
6問（42.9%）	4.8	4.8
5問（35.7%）	3.6	3.5
4問（28.6%）	2.6	2.6
3問（21.4%）	2.0	1.8
2問（14.3%）	1.4	1.3
1問（7.1%）	0.7	0.7
0問（0.0%）	0.4	0.3

（割合は小数第2位以下を四捨五入）

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△12.0問	12.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問
第1四分位	▽8.0問	8.0問

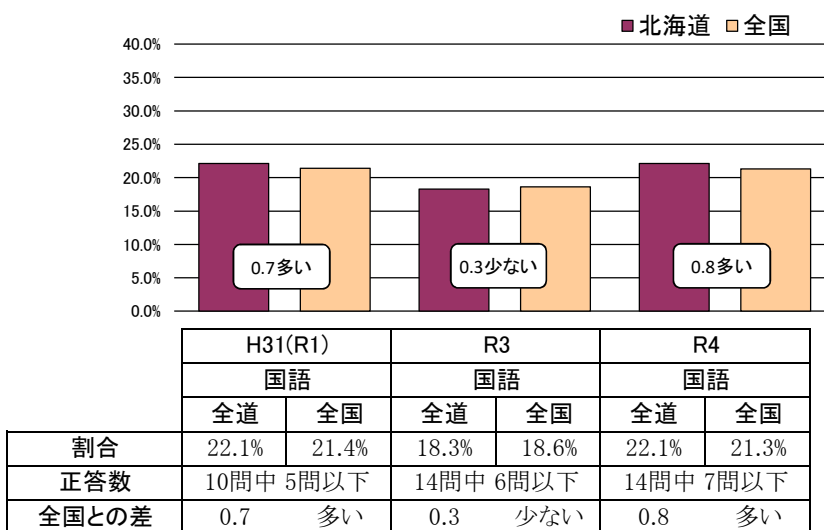
※ 生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



【参考】今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果
平成31年度（令和元年度）
小学校国語
全道 24.7% 全国 23.5%
全国との差 1.2多い

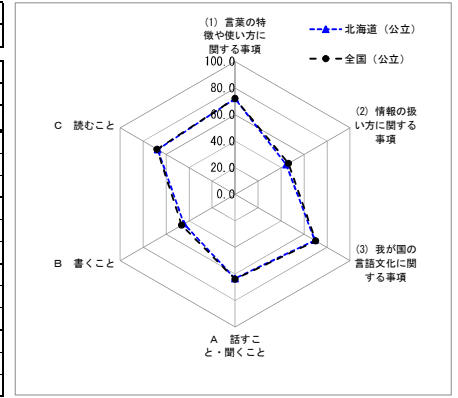
問題別調査結果 [中学校国語]

集計結果

対象学校数		北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
		567	9,340		32,910	891,820
分類	区分	全体		対象問題数(問)	平均正答率(%)	
				14	北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	6	72.1	72.2	
		(2) 情報の扱い方に關する事項	1	44.5	46.5	
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	3	69.3	70.2	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	63.5	63.9	
		B 書くこと	1	44.5	46.5	
		C 読むこと	2	67.3	67.9	
評価の観点	知識・技能	10	68.5	69.0		
	思考・判断・表現	6	61.6	62.3		
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	6	73.3	73.7		
	短答式	5	70.7	70.3		
	記述式	3	55.7	57.4		

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)				
			知識及び技能					選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項									
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する			1ウ			75.3	74.7	4.0	3.8			
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く			2エ			65.4	65.1	0.1	0.1			
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	1ア		1ウ			49.8	51.8	18.6	16.2			
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	2オ					81.5	82.3	0.2	0.2			
2二①	漢字を書く(のぞく)	文脈に即して漢字を正しく書く	2ウ					80.9	82.1	9.7	8.8			
2二②	漢字を書く(よろこんで)		2ウ					80.3	80.5	3.6	3.3			
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	1イ		1ウ			44.5	46.5	10.0	9.0			
3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する	1オ					55.2	52.5	0.7	0.7			
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する	1ウ					84.8	84.0	0.3	0.3			
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える			1イ			61.7	62.0	1.0	1.0			
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する			1ウ			73.0	73.8	15.1	13.3			
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する			1エ(ウ)			38.5	39.4	1.2	0.9			
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する			2ウ(ウ)			89.0	90.1	1.4	1.0			
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する			2ウ(ウ)			80.5	81.1	1.5	1.1			

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H31(R1)	R3	R4
平均正答率が全国以上の問題数	5/10問	6/14問	4/14問
無解答率が全国以下の問題数	6/10問	11/14問	5/14問
無解答率が5%以上の問題数	3/10問	4/14問	4/14問

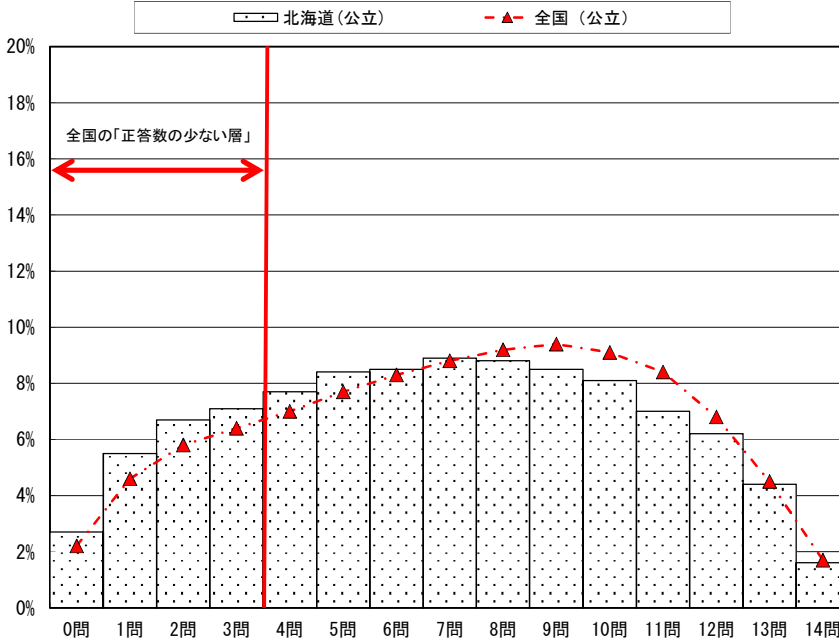
3. 教科に関する調査

■ 中学校数学

【概要】

- 平均正答率は49 [48.9] %
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.5ポイント。
- 【参考】今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果
平成31年度（令和元年度）小学校算数の全国平均正答率との差は、-2.1ポイント。

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	32,905	6.9 / 14	49 [48.9]	7.0	3.7
全国（公立）	891,913	7.2 / 14	51 [51.4]	7.0	3.6



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数（生徒の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
14問（100.0%）	1.6	1.7
13問（92.9%）	4.4	4.5
12問（85.7%）	6.2	6.8
11問（78.6%）	7.0	8.4
10問（71.4%）	8.1	9.1
9問（64.3%）	8.5	9.4
8問（57.1%）	8.8	9.2
7問（50.0%）	8.9	8.8
6問（42.9%）	8.5	8.3
5問（35.7%）	8.4	7.7
4問（28.6%）	7.7	7.0
3問（21.4%）	7.1	6.4
2問（14.3%）	6.7	5.8
1問（7.1%）	5.5	4.6
0問（0.0%）	2.7	2.2

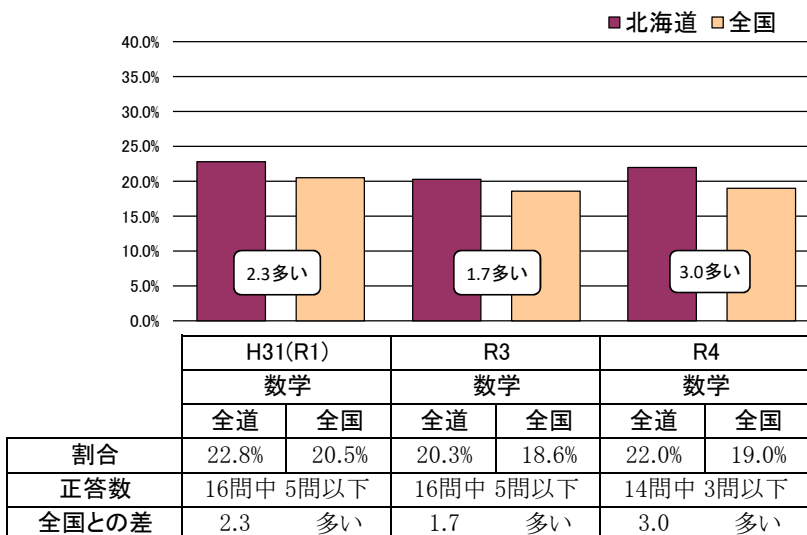
（割合は小数第2位以下を四捨五入）

	四分位	
	北海道	全国
第3四分位	△10.0問	10.0問
第2四分位	◇7.0問	7.0問
第1四分位	▽4.0問	4.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



【参考】今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果

平成31年度（令和元年度）

小学校算数

全道 全国

22.2% 19.5%

全国との差 2.7多い

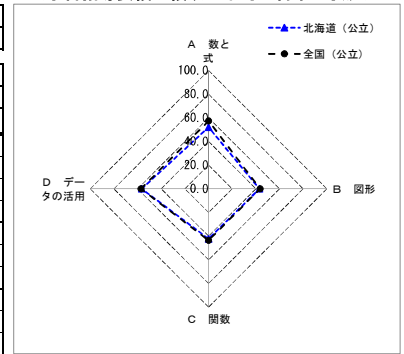
問題別調査結果 [中学校数学]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	567	9,339		32,905	891,913

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体			14	49	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	52.0	57.4	
	B 図形	3	43.0	43.6	
	C 関数	3	42.3	43.6	
	D データの活用	3	56.5	57.1	
評価の観点	知識・技能	9	57.3	59.9	
	思考・判断・表現	5	34.0	36.2	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	52.3	52.6	
	短答式	5	61.2	65.7	
	記述式	5	34.0	36.2	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1(1) ア(イ)				○				○	35.8	52.2	16.1	11.5	
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ア(ウ)				○				○	71.1	74.5	6.9	6.1	
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している			2(2) ア(イ)		○				○	45.1	44.9	0.3	0.4	
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している			2(1) ア(イ)		○				○	36.9	37.9	0.3	0.4	
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している			1(2) ア(イ)		○				○	82.1	83.3	0.2	0.3	
6(1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときのどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1) ア(イ)				○				○	73.2	73.8	6.8	6.0	
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ(イ)				○				○	43.5	48.7	24.9	20.0	
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(1) イ(イ)				○				○	36.1	37.6	29.9	26.2	
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1) イ(イ)		○				○	42.4	44.0	1.8	1.4	
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる			2(1) ア(イ)		○				○	45.1	44.1	0.8	0.7	
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1) ア(イ)		○				○	54.3	54.6	7.9	7.2	
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1) イ(イ)		○				○	35.6	38.4	26.0	24.4	
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している			2(2) ア(イ)		○				○	71.7	73.2	8.6	7.5	
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる			2(2) イ(イ)		○				○	12.2	12.5	42.5	38.5	

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H31(R1)	R3	R4
平均正答率が全国以上の問題数	3/16問	3/16問	2/14問
無解答率が全国以下の問題数	5/16問	3/16問	3/14問
無解答率が5%以上の問題数	9/16問	9/16問	9/14問

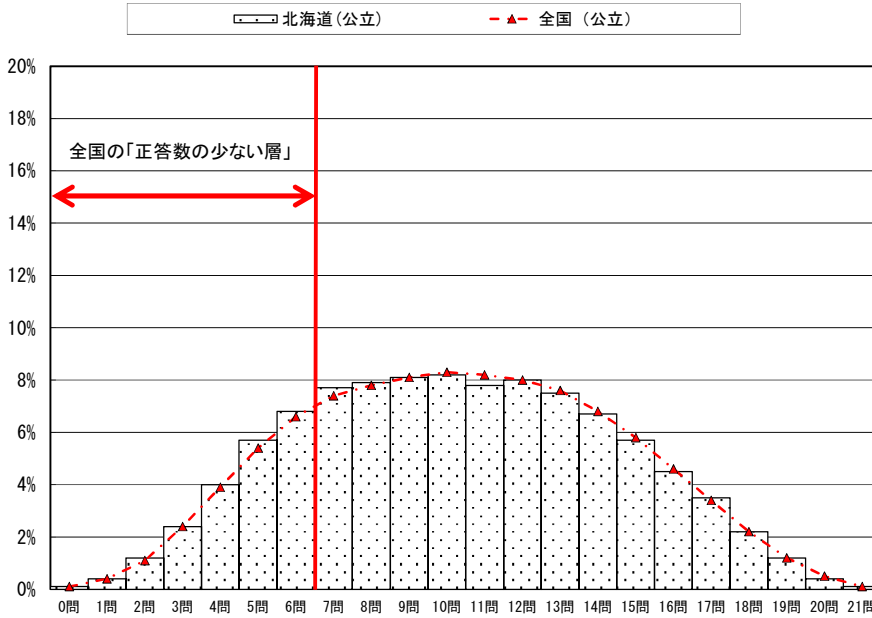
3. 教科に関する調査

■ 中学校理科

【概要】

- 平均正答率は49〔49.0〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.3ポイント。

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	32,940	10.3 / 21	49〔49.0〕	10.0	4.1
全国(公立)	892,585	10.4 / 21	49〔49.3〕	10.0	4.1



※ 全国の「正答数の少ない層」 … 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

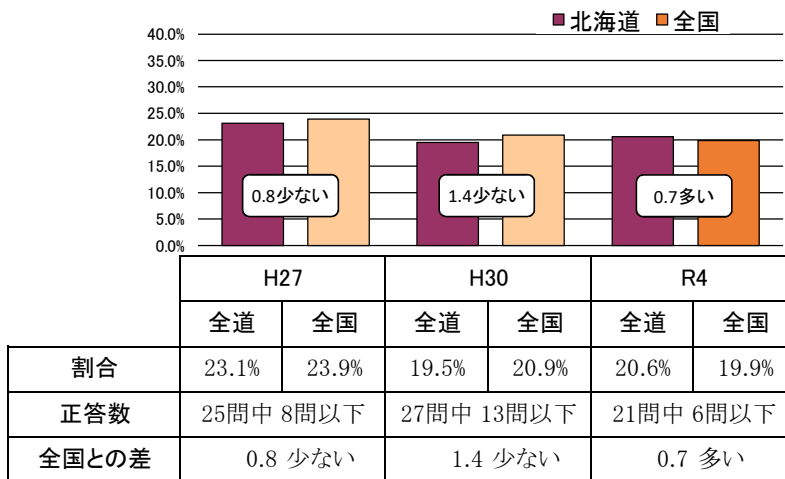
正答数 (生徒の割合(%))		
正答数 (正答率)	北海道	全国
21問 (100.0%)	0.1	0.1
20問 (95.2%)	0.4	0.5
19問 (90.5%)	1.2	1.2
18問 (85.7%)	2.2	2.2
17問 (81.0%)	3.5	3.4
16問 (76.2%)	4.5	4.6
15問 (71.4%)	5.7	5.8
14問 (66.7%)	6.7	6.8
13問 (61.9%)	7.5	7.6
12問 (57.1%)	8.0	8.0
11問 (52.4%)	7.8	8.2
10問 (47.6%)	8.2	8.3
9問 (42.9%)	8.1	8.1
8問 (38.1%)	7.9	7.8
7問 (33.3%)	7.7	7.4
6問 (28.6%)	6.8	6.6
5問 (23.8%)	5.7	5.4
4問 (19.0%)	4.0	3.9
3問 (14.3%)	2.4	2.4
2問 (9.5%)	1.2	1.1
1問 (4.8%)	0.4	0.4
0問 (0.0%)	0.1	0.1

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

	四分位	
	北海道	全国
第3四分位	△13.0問	13.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
 は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



【参考】今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果

※理科について、今年度対象となった生徒は小学校6学年時に理科の調査の実施なし

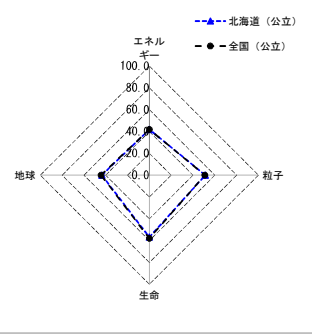
問題別調査結果 [中学校理科]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	567	9,337		32,940	892,585
分類	区分		対象問題数(問)	平均正答率(%)	
				北海道(公立)	全国(公立)
全体			21	49	49.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域		6	41.9	41.9
	「粒子」を柱とする領域		5	51.2	50.9
	「生命」を柱とする領域		5	56.8	57.9
	「地球」を柱とする領域		6	43.6	44.3
			7	46.2	46.1
評価の観点	知識・技能		14	50.4	51.0
	思考・判断・表現		0		
	主体的に学習に取り組む態度		0		
問題形式	選択式		15	49.5	49.6
	短答式		1	24.6	24.8
	記述式		5	52.4	53.5

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点	問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域		選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
1(1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(3) (7)				○		○		47.9	44.2	0.0	0.1
1(2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	(3) (7)				○		○		79.9	78.5	0.1	0.1
2(1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考慮する学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる				(4) (7)	○		○		53.2	54.2	0.2	0.2
2(2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる				(4) (4)	○		○		40.1	40.8	0.2	0.3
2(3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる				(4) (4)	○		○		27.7	28.5	0.3	0.3
3(1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	(4) (4)				○		○		80.2	80.1	0.1	0.1
3(2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	(4) (4)				○		○		59.3	60.2	0.3	0.3
3(3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもちゃを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもちゃとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	(3) (7)	(4) (4)			○		○		24.6	24.8	4.4	4.3
4(1)	ダイオウグモクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる				(1) (4)	○		○		71.7	74.5	7.2	5.5
4(2)	脊椎動物には骨格のつくりと共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の観察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の視点から化学変化を分析して解釈できるかどうかをみる				(1) (4)	○		○		64.8	65.6	0.2	0.2
5(1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	(1) (4)				○		○		12.8	15.3	0.3	0.2
5(2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (4)				○		○		43.3	45.0	0.5	0.4
5(3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	(1) (4)				○		○		42.8	43.3	31.2	29.4
6(1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる				(2) (7)	○		○		48.4	48.0	0.3	0.3
6(2)	陸上のB地点で中生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる				(2) (4)	○		○		58.7	60.3	0.6	0.6
6(3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がりに方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる				(2) (4)	○		○		33.9	34.2	0.7	0.7
7(1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(2) (7)				○		○		37.3	35.9	0.4	0.4
7(2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけを行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	(2) (7)				○		○		54.6	53.4	0.8	1.0
8(1)	アリの行列のつくり方を調べることを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	(3) (7)				○		○		53.9	55.2	12.9	11.6
8(2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見直しをものごとができるかどうかをみる	(3) (7)				○		○		53.9	55.1	15.7	14.9
8(3)	生物Xが昆虫かどうかを比較しながら、観点と基準を明確に判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	(1) (4)				○		○		39.5	39.2	1.8	1.4

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H27	H30	R4
平均正答率が全国以上の問題数	13/25問	17/27問	7/21問
無解答率が全国以下の問題数	19/25問	22/27問	13/21問
無解答率が5%以上の問題数	9/25問	9/27問	4/21問

4. 質問紙調査（P 3の項目を掲載）

■授業改善

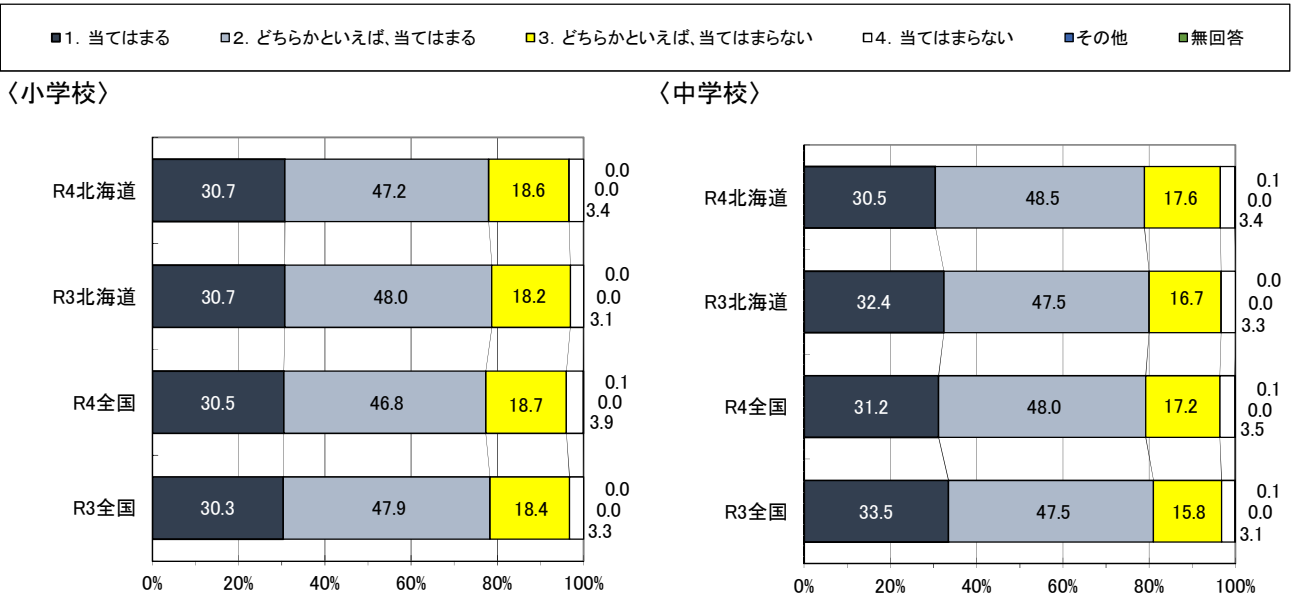
【児童生徒質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

① 「5年生まで[中:1、2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

(児童生徒 質問番号 小39、中39)

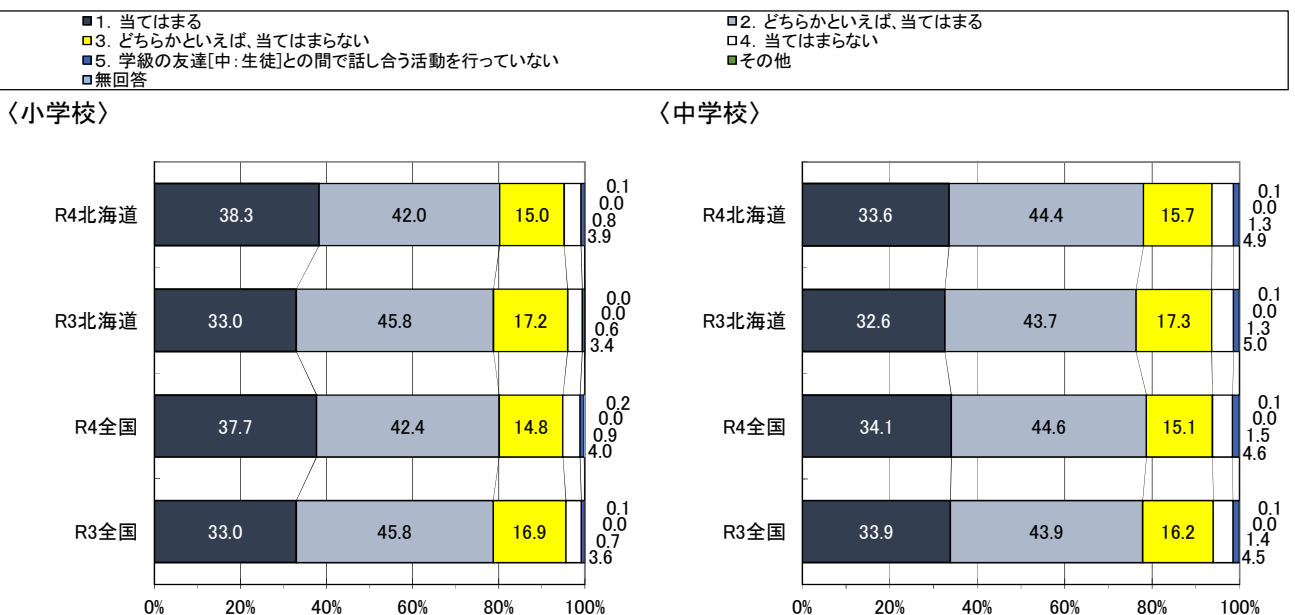
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和3年度と比べて、小学校で同様、中学校で1.9ポイント低い。全国と比べて、小学校で0.2ポイント高く、中学校で0.7ポイント低い。



② 「学級の友達[中:生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」

(児童生徒 質問番号 小43、中43)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和3年度と比べて、小学校で5.3ポイント、中学校で1.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.6ポイント高く、中学校で0.5ポイント低い。



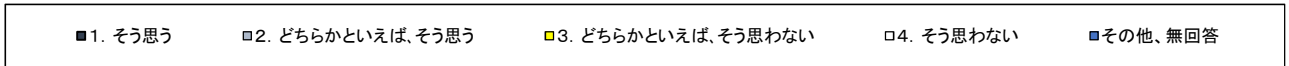
【学校質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

⑨ 「調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」

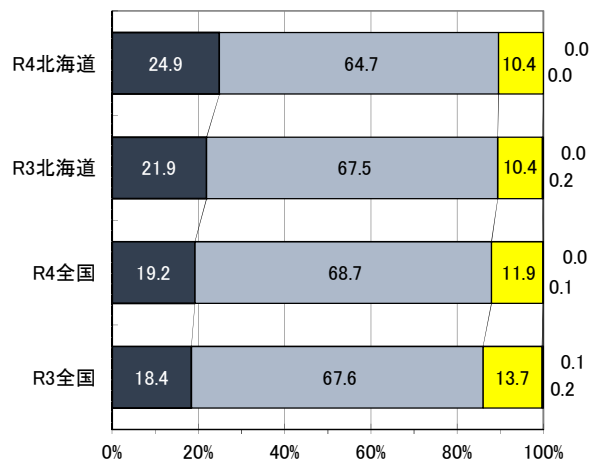
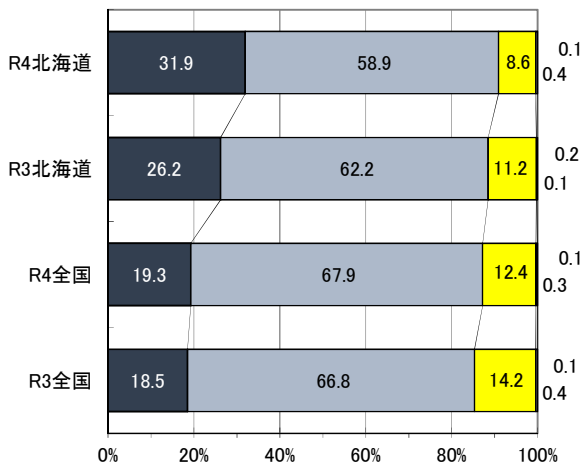
(学校 質問番号 小23、中23)

「1. そう思う」と回答している学校の割合は、令和3年度と比べて、小学校で5.7ポイント、中学校で3.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で12.6ポイント、中学校で5.7ポイント高い。



〈小学校〉

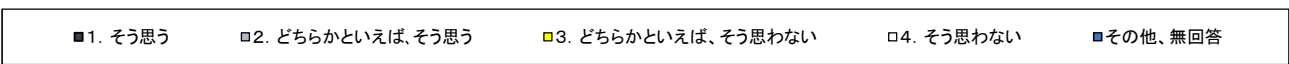
〈中学校〉



⑩ 「調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

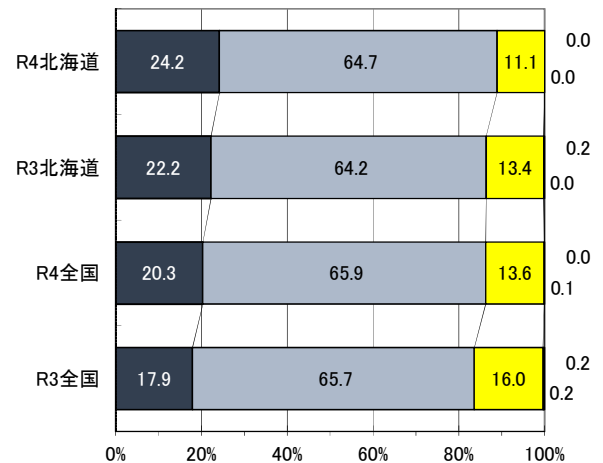
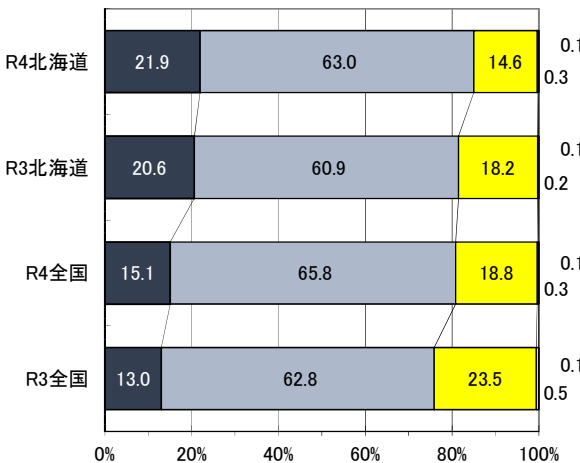
(学校 質問番号 小26、中26)

「1. そう思う」と回答している学校の割合は、令和3年度と比べて、小学校で1.3ポイント、中学校で2.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で6.8ポイント、中学校で3.9ポイント高い。



〈小学校〉

〈中学校〉



4. 質問紙調査（P 3の項目を掲載）

■ 自己有用感等

【児童生徒質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

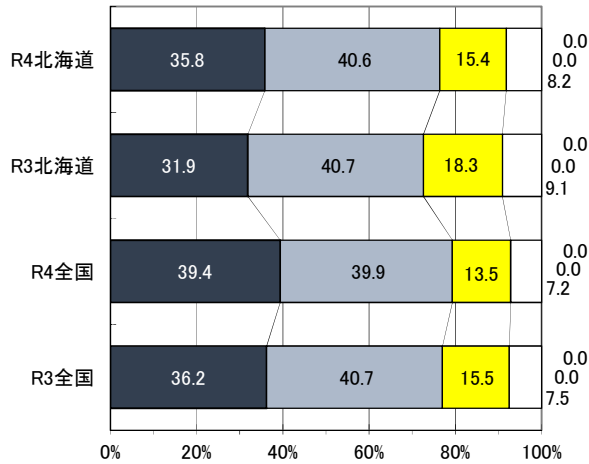
③ 「自分には、よいところがあると思いますか」

（児童生徒 質問番号 小7、中7）

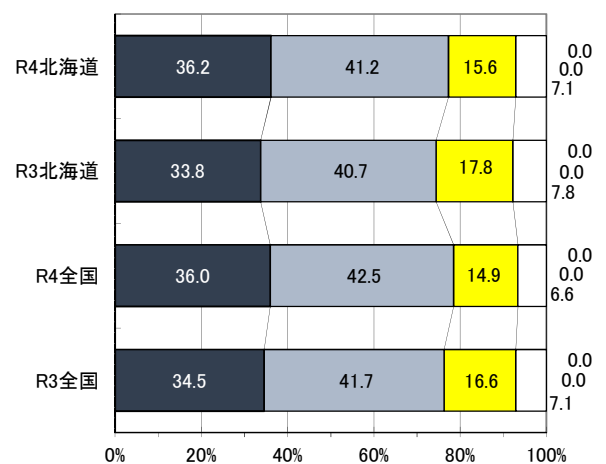
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和3年度と比べて、小学校で3.9ポイント、中学校で2.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.6ポイント低く、中学校で0.2ポイント高い。

■ 1. 当てはまる □ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



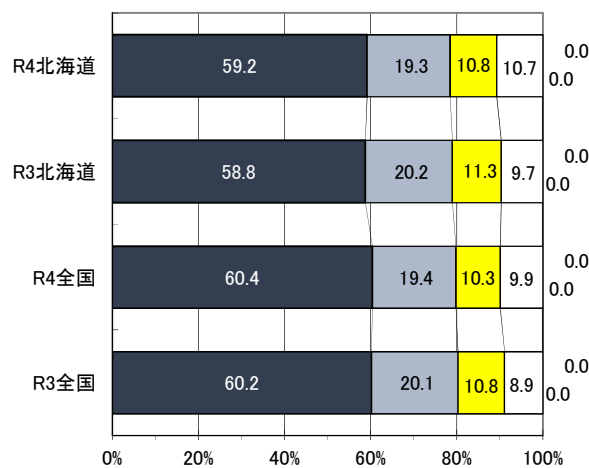
④ 「将来の夢や目標を持っていますか」

（児童生徒 質問番号 小9、中9）

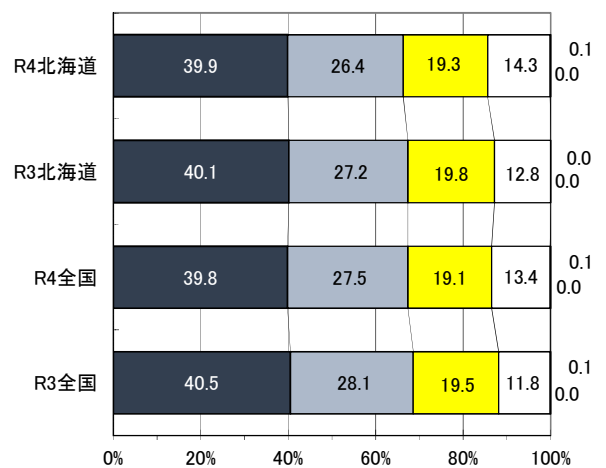
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和3年度と比べて、小学校で0.4ポイント高く、中学校で0.2ポイント低い。全国と比べて、小学校で1.2ポイント低く、中学校で0.1ポイント高い。

■ 1. 当てはまる □ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



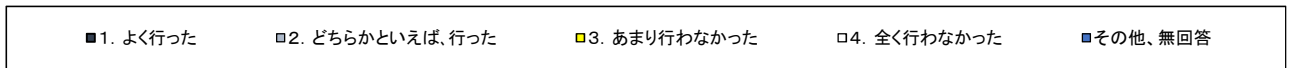
【学校質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

⑪ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか」

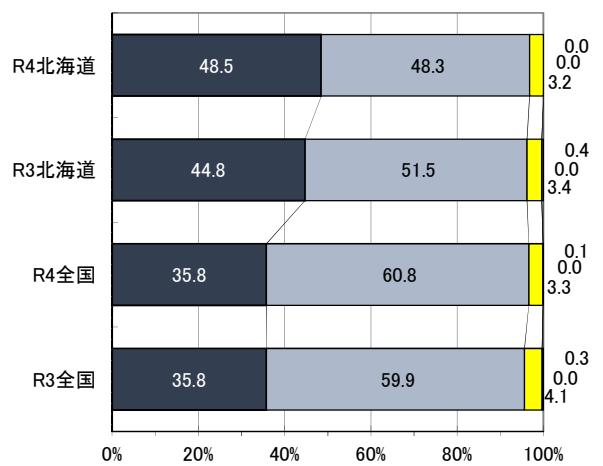
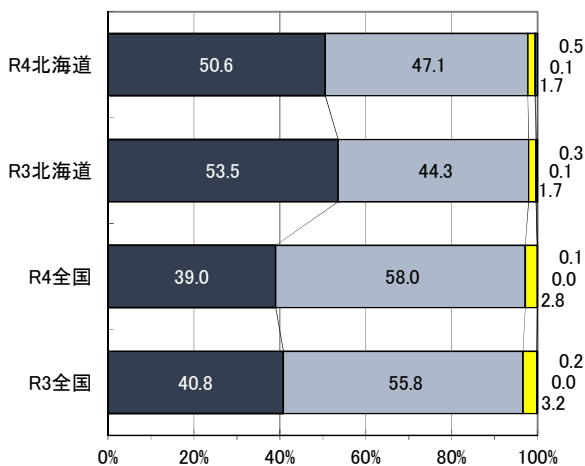
(学校 質問番号 小37、中37)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和3年度と比べて、小学校で2.9ポイント低く、中学校で3.7ポイント高い。全国と比べて、小学校で11.6ポイント、中学校で12.7ポイント高い。



〈小学校〉

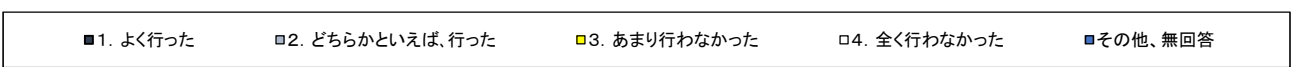
〈中学校〉



⑫ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」

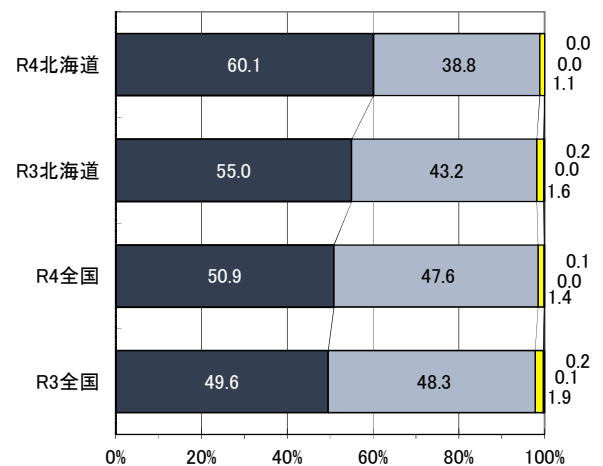
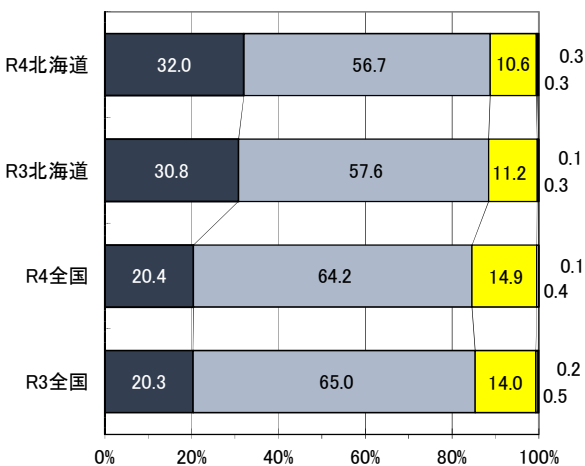
(学校 質問番号 小8、中8)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和3年度と比べて、小学校で1.2ポイント、中学校で5.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で11.6ポイント、中学校で9.2ポイント高い。



〈小学校〉

〈中学校〉



4. 質問紙調査（P 3の項目を掲載）

■学習習慣等

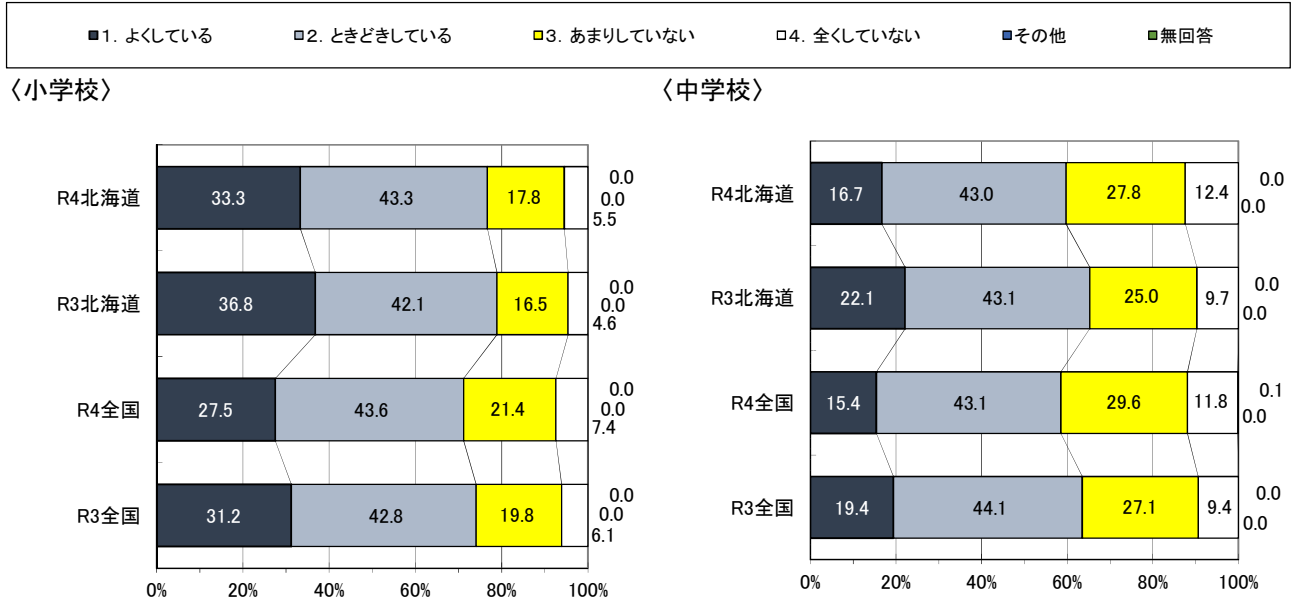
【児童生徒質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

⑤ 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」

(児童生徒 質問番号 小20、中20)

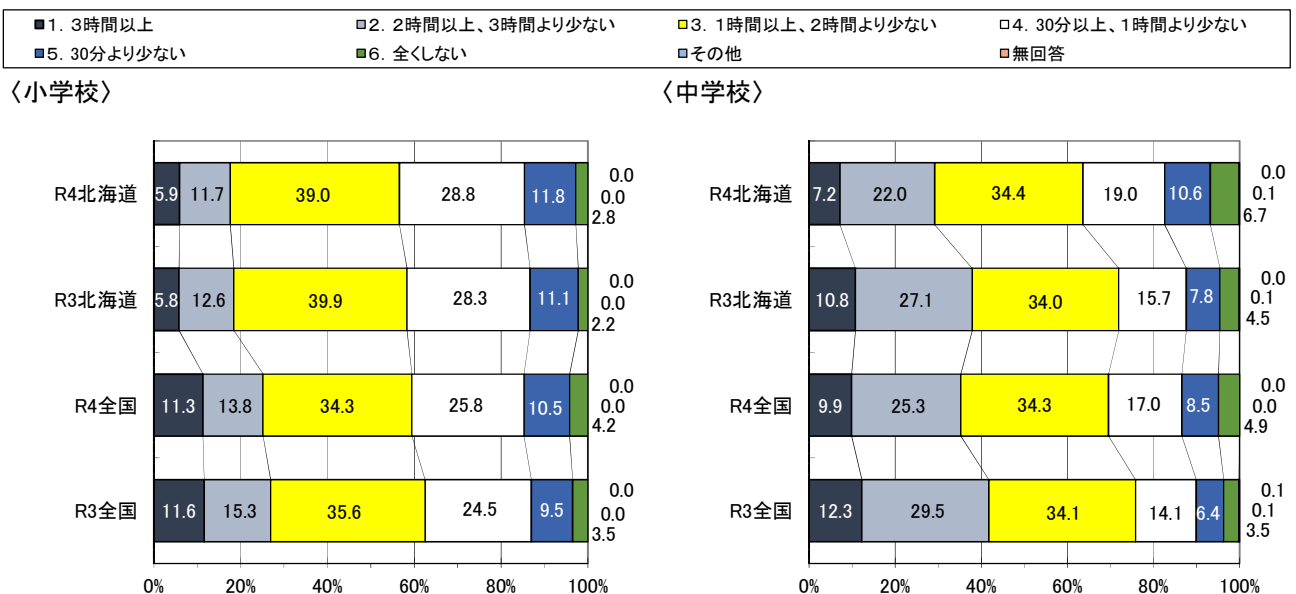
「1. よくしている」、「2. ときどきしている」と回答している児童生徒の割合は、令和3年度と比べて、小学校で2. 3ポイント、中学校で5. 5ポイント低い。全国と比べて、小学校で5. 5ポイント、中学校で1. 2ポイント高い。



⑥ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

(児童生徒 質問番号 小21、中21)

1日当たり1時間以上勉強すると回答している児童生徒の割合は、令和3年度と比べて、小学校で1. 7ポイント、中学校で8. 3ポイント低い。全国と比べて、小学校で2. 8ポイント、中学校で5. 9ポイント低い。



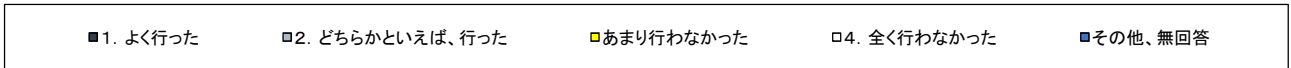
【学校質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

⑬ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」

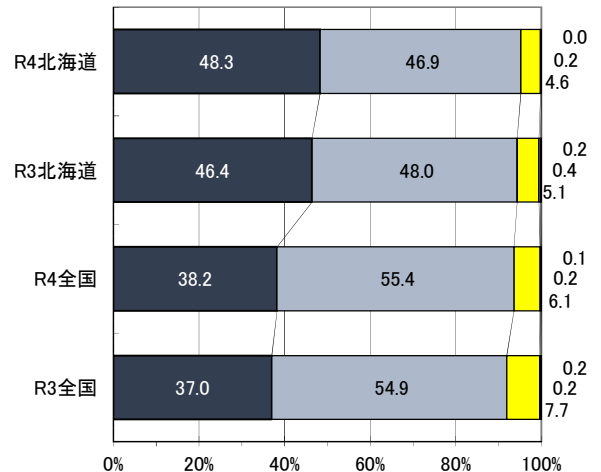
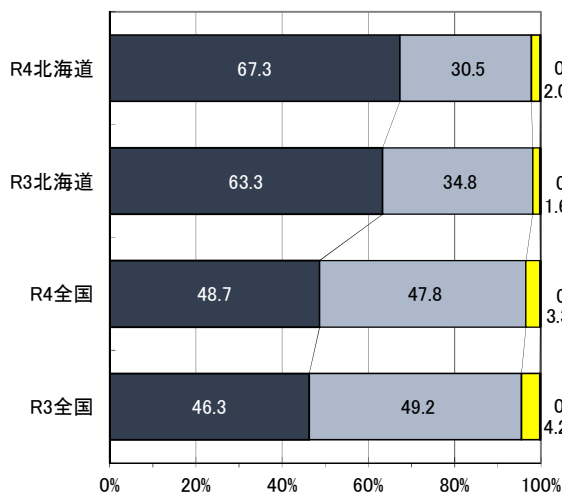
(学校 質問番号 小77、中75)

「1. よく行った」、「2. どちらかといえば、行った」と回答している学校の割合は、令和3年度と比べて、小学校で0.3ポイント低く、中学校で0.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で1.3ポイント、中学校で1.6ポイント高い。



〈小学校〉

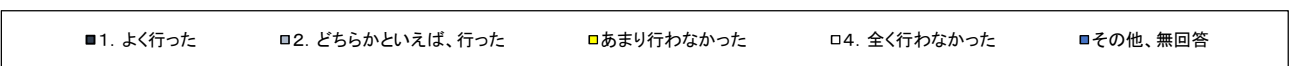
〈中学校〉



⑭ 「調査対象学年の児童生徒の保護者に対して、前年度までに、児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか」

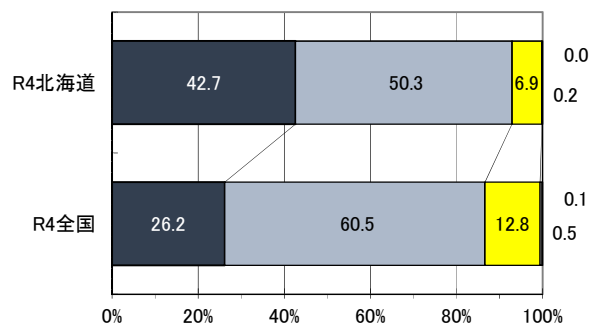
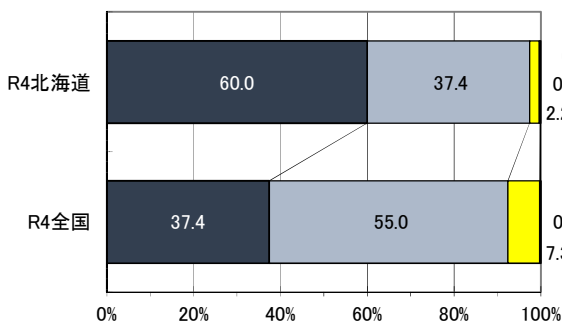
(学校 質問番号 小78、中76(※令和4年度新規項目))

「1. よく行った」「2. どちらかといえば、行った」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で5.0ポイント、中学校で6.3ポイント高い。



〈小学校〉

〈中学校〉



4. 質問紙調査（P 3の項目を掲載）

■生活習慣等

【児童生徒質問紙】

⑦ 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」

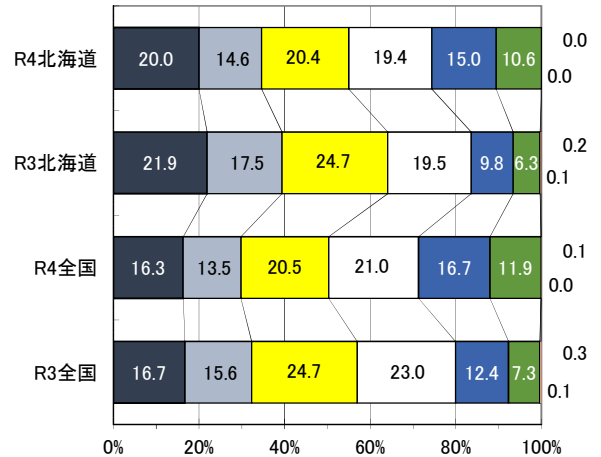
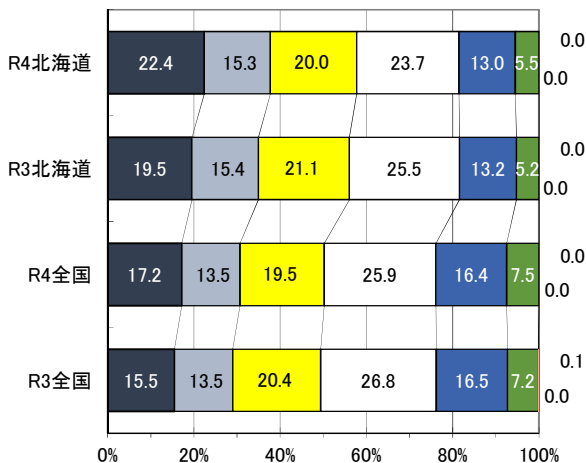
（児童生徒 質問番号 小5、中5）

1日当たり1時間以上、テレビゲームをする児童生徒の割合は、令和3年度と比べて、小学校で0.1ポイント、中学校で9.2ポイント低い。全国と比べて、小学校で5.3ポイント、中学校で3.1ポイント高い。

■4時間以上 □3時間以上、4時間より少ない □2時間以上、3時間より少ない □1時間以上、2時間より少ない ■1時間より少ない ■全くない ■その他 ■無回答

〈小学校〉

〈中学校〉



⑧ 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」

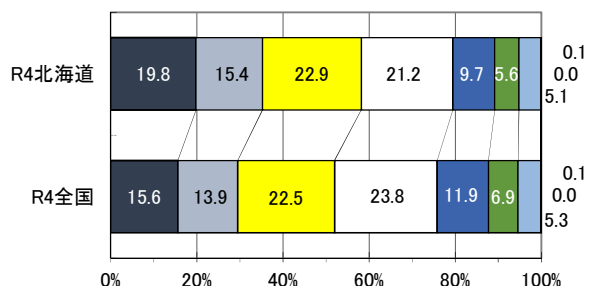
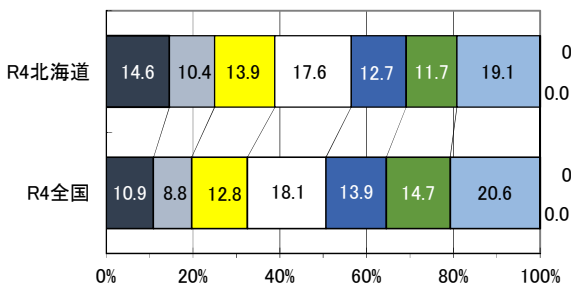
（児童生徒 質問番号 小6、中6（※令和4年度新規項目））

普段、1日当たり1時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをする児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で5.9ポイント、中学校で3.5ポイント高い。

■4時間以上 □1時間以上、2時間より少ない □携帯電話やスマートフォンを持っていない □3時間以上、4時間より少ない ■30分以上、1時間より少ない □30分より少ない □その他 ■無回答

〈小学校〉

〈中学校〉



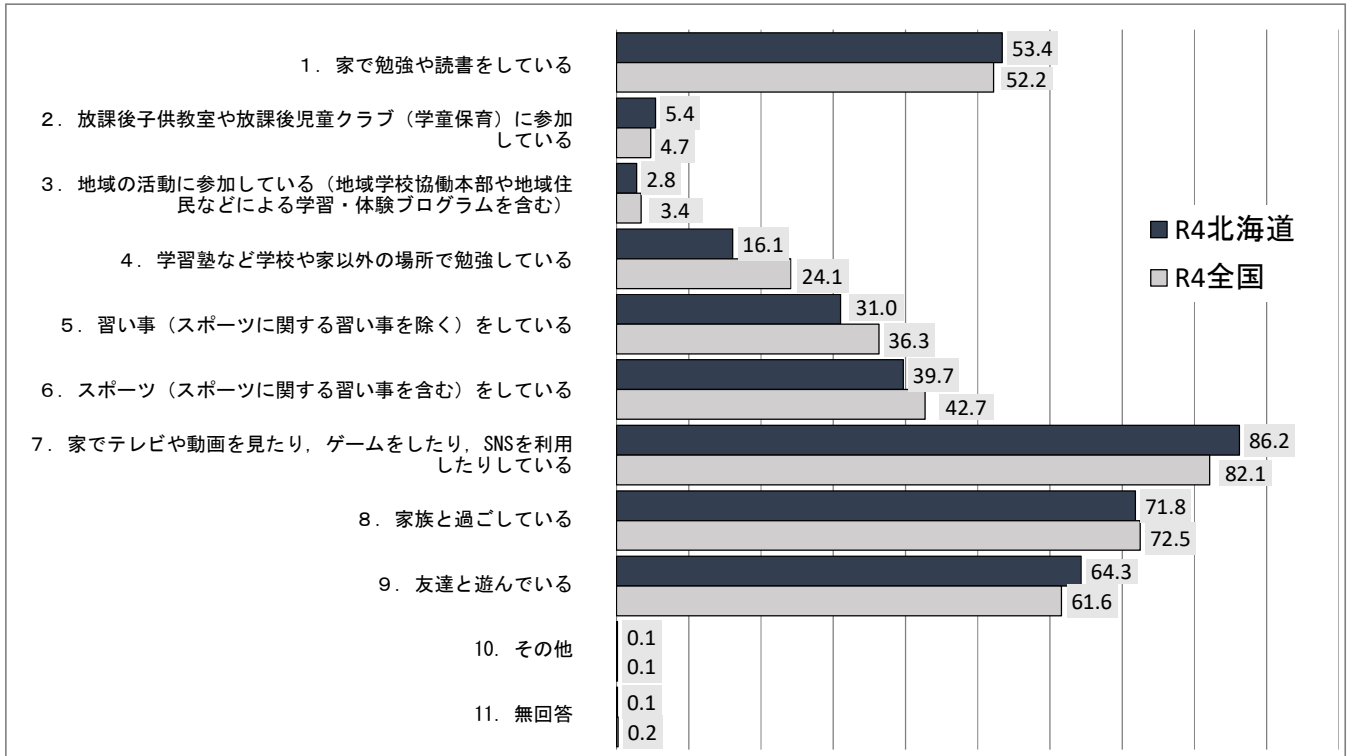
■生活習慣等（参考）※複数回答。

【児童生徒質問紙】

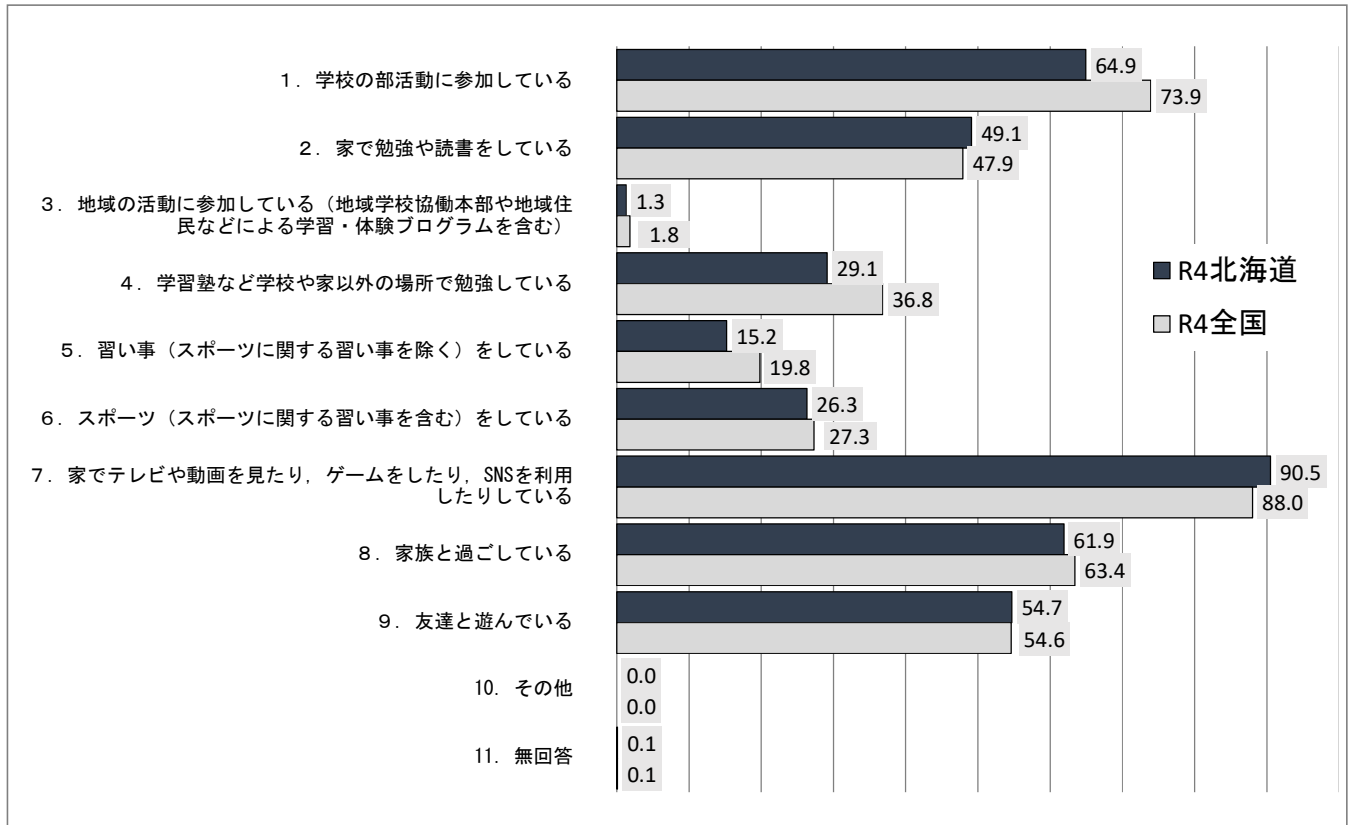
○「放課後や週末は何をして過ごしていることが多いですか」

（児童生徒 質問番号 小31、中31）

〈小学校〉



〈中学校〉



4. 質問紙調査（P3の項目を掲載）

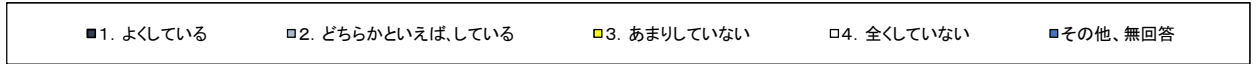
■検証改善サイクルの確立等

【学校質問紙】

⑮ 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」

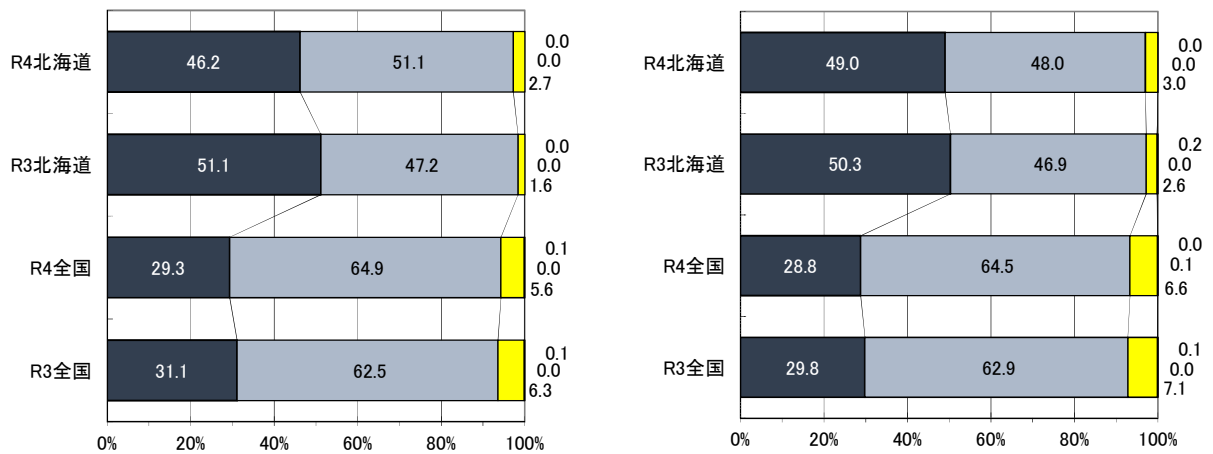
（学校 質問番号 小17、中17）

「1. よくしている」と回答している学校の割合は、令和3年度と比べて、小学校で4.9ポイント、中学校で1.3ポイント低い。全国と比べて、小学校で16.9ポイント、中学校で20.2ポイント高い。



〈小学校〉

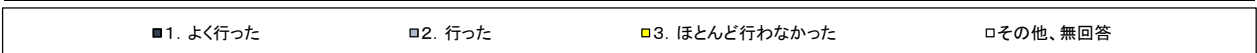
〈中学校〉



⑯ 「令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

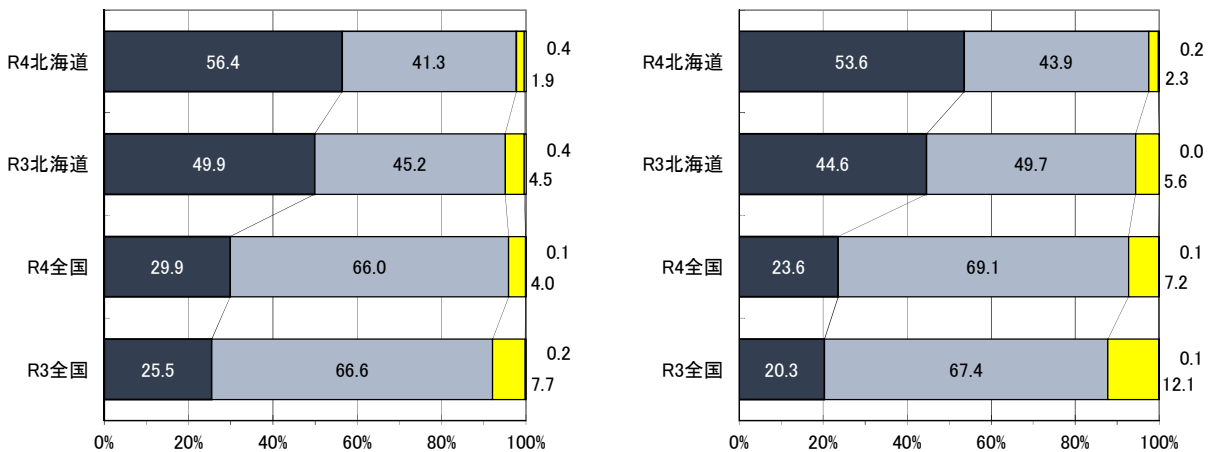
（学校 質問番号 小80、中78）

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和3年度と比べて、小学校で6.5ポイント、中学校で9.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で26.5ポイント、中学校で30.0ポイント高い。



〈小学校〉

〈中学校〉



5. 1人1台端末の活用について

児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器の授業場面での活用状況について

■ 児童生徒質問紙調査(小・中:32、33、34、35)

- ① 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。
- ② 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)。
- ③ 学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。
- ④ 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。

■ 学校質問紙調査(小:59、60、63、61 中:57、58、61、59)

- ⑤ 前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。
- ⑥ 児童生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。
- ⑦ 児童生徒同士がやりとりする場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。
- ⑧ 児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。

()内は質問番号

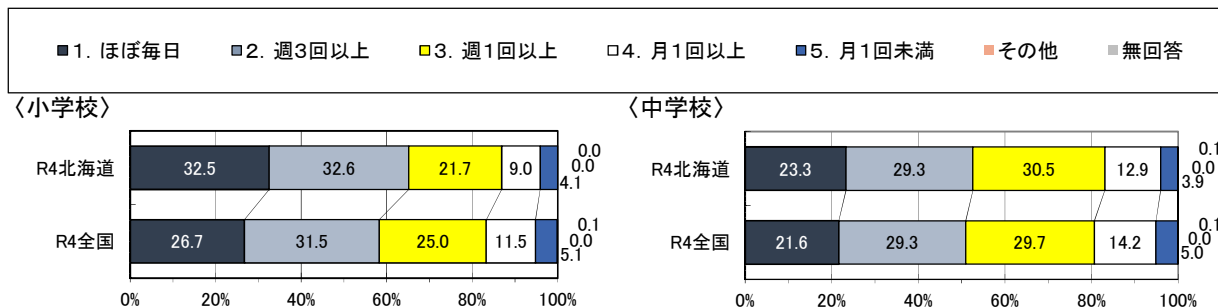
5. 1人1台端末の活用について

【児童生徒質問紙】

① 「5年生(1、2年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

(児童生徒 質問番号 小32、中32)

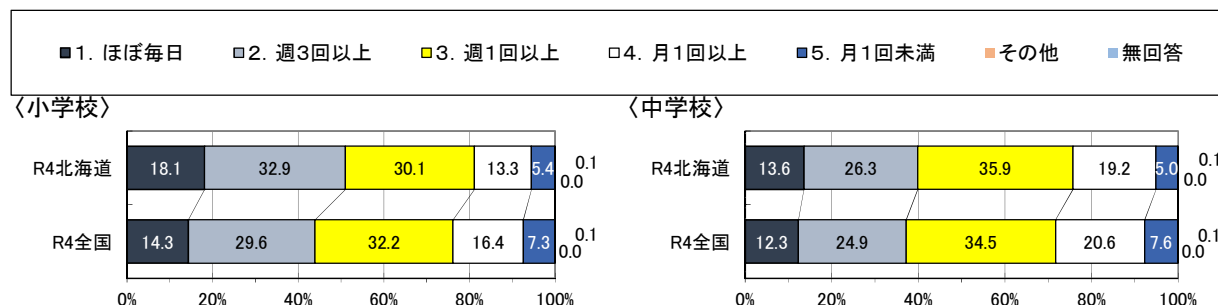
「1. ほぼ毎日」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で5.8ポイント、中学校で1.7ポイント高い。



② 「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)」

(児童生徒 質問番号 小33、中33)

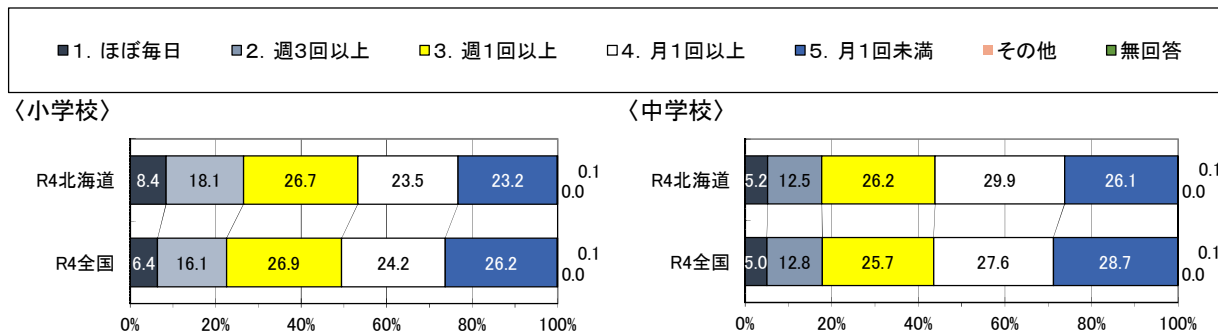
「1. ほぼ毎日」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で3.8ポイント、中学校で1.3ポイント高い。



③ 「学校で、学級の友達(生徒)と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」

(児童生徒 質問番号 小34、中34)

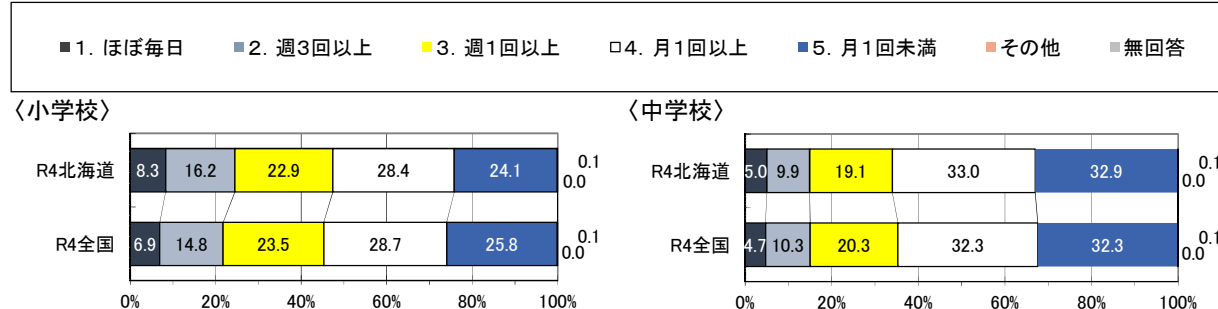
「1. ほぼ毎日」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で2.0ポイント、中学校で0.2ポイント高い。



④ 「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」

(児童生徒 質問番号 小35、中35)

「1. ほぼ毎日」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で1.4ポイント、中学校で0.3ポイント高い。

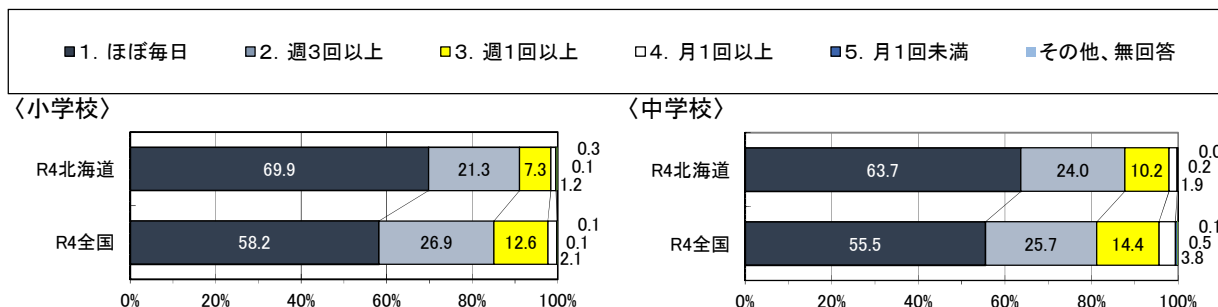


【学校質問紙】

⑤ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」

(学校 質問番号 小59、中57)

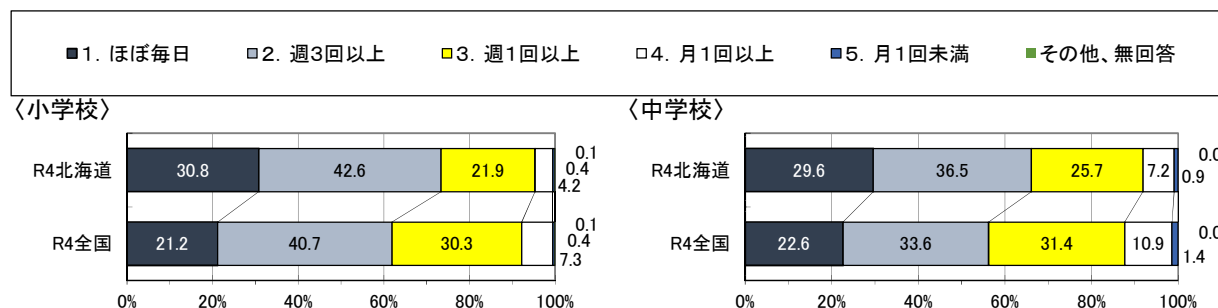
「1. ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で11.7ポイント、中学校で8.2ポイント高い。



⑥ 「調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」

(学校 質問番号 小60、中58)

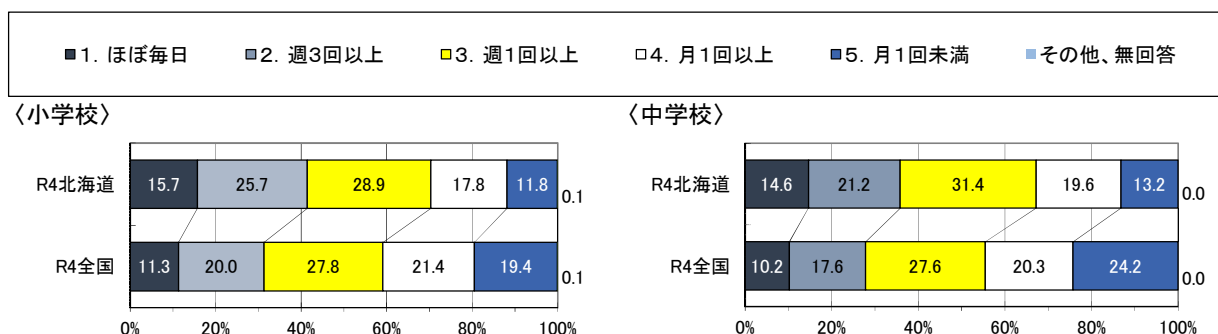
「1. ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で9.6ポイント、中学校で7.0ポイント高い。



⑦ 「調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」

(学校 質問番号 小63、中61)

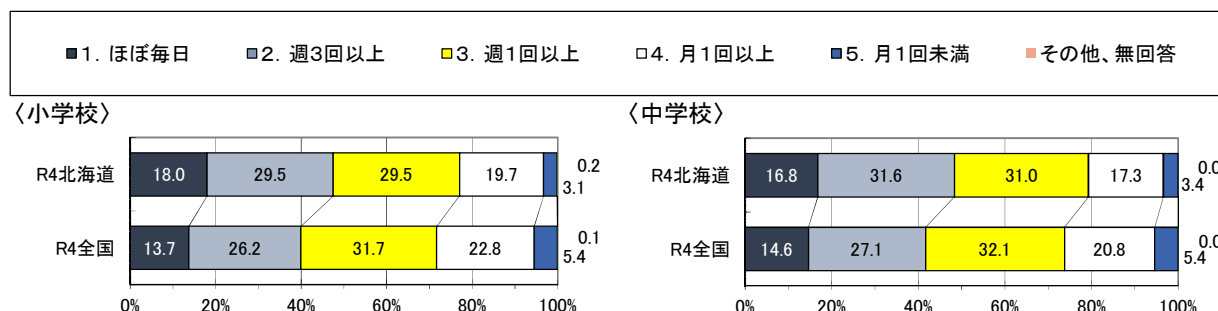
「1. ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で4.4ポイント、中学校で4.4ポイント高い。



⑧ 「調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」

(学校 質問番号 小61、中59)

「1. ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で4.3ポイント、中学校で2.2ポイント高い。



【参考】札幌市を除く北海道の調査結果

- 国は指定都市を除く都道府県の調査結果も公表していることから、「札幌市を除く北海道の調査結果」の概要を掲載します。

1. 調査の概要

	対象学校数(校)	実施学校数(校) (実施率)	児童生徒数(人)
小 学 校	760	751 (98.8%)	21,066
中 学 校	479	470 (98.1%)	20,550
合 計	1,239	1,221 (98.5%)	41,616

※ 実施学校数は、4月19日に調査を実施した数。

※ 児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

2. 結果の概要

■ 教科に関する調査

各教科の平均正答率

		小学校			中学校		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
		R4	R4	R4	R4	R4	R4
		R3	R3	H30	R3	R3	H30
平均 正答率 (%)	道 (札幌市を除く)	64[63.9]	60[60.3]	63[63.0]	68[67.9]	47[46.8]	48[48.0]
		63 [62.7]	67 [66.6]	59 [58.8]	64 [63.7]	55 [54.7]	66 [66.1]
	国	66[65.6]	63[63.2]	63[63.3]	69[69.0]	51[51.4]	49[49.3]
		65 [64.7]	70 [70.2]	60 [60.3]	65 [64.6]	57 [57.2]	66 [66.1]
平均 正答数 (問)	道 (札幌市を除く)	9.0/14	9.6/16	10.7/17	9.5/14	6.6/14	10.1/21
		8.8/14	10.7/16	9.4/16	8.9/14	8.7/16	17.9/27
	国	9.2/14	10.1/16	10.8/17	9.7/14	7.2/14	10.4/21
		9.1/14	11.2/16	9.6/16	9.0/14	9.1/16	17.9/27

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値〔道教委が独自に算出した小数値〕

※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値〔国が公表した小数値〕

※ 国語・算数（数学）については、上段は令和4年度、下段は令和3年度、理科については、上段は令和4年度、下段は前回調査のあった平成30年度の結果